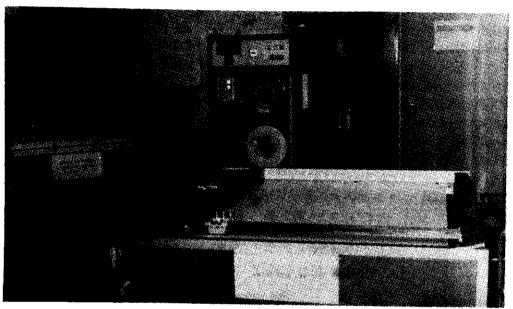


昭和49年3月 海上保安庁 水路部 海洋資料センター 東京都中央区築地5-3-1 (〒104) 電話 03(541)3811 テレックス 252,2452



目 次

		ページ
1,	国内会議	(1) 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会海洋分科会 1
		(2) 海洋資料交換国内連絡会
		(付記)汚染資料グループ会議 5
		(3) 国内海洋調査技術連絡会
		(付記)昭和48年の日本海の海況 7
2	国際会議	(1) 国際海洋資料交換作業部会第7回会議
		(2) 政府間海洋学委員会第8回総会
		(3) 日米天然会議(UJNR)海底資源工学調整委員会(MRECC)… 18
		(4) MRECC海底調査専門部会
3.	紹 介	国際海洋探査10年計画(IDOE)について19
4.	観測調査	昭和49年度海洋調査計画
5.	業務案内	(1) IOC刊行物・文書保管センターについて ··················· 21
		(2) 各層観測資料のデータ・ベースについて
		(3) 海洋調査報告(ROSCOP)の受領状況について26
		(4) 海洋の地質及び地球物理データの包含範囲の目録について 27
		(5) 受領刊行物
		(6) 既刊刊行物

1. 国内会議

(1) 日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会海洋分科会

第49回会議

日時 昭和 4 8年 9月 2 0日(木) 1 4.00~17.00

場所。虎ノ門共斉会館英国クラシック室

議事概要

1. 経過報告

事務局から次の報告があった。

- (1) ソ連のCSK観測船タマンゴ号が8月22日から26日まで東京港に客港した。
- (2) 大和田守氏(気象庁海洋気象部調査官) は IOC職員に任命され、10月16日 起任する。
- (8) CSK国際調整グループ会議第10会 議の開催についてシンガポールへ照会していたが、開催できない旨連絡(9月12日付書信)があった。従って1975年日本において同会議を開催する必要がある。
- (4) 海洋汚染問題連絡官の指名依頼をCS Kメンバー10か国に出していたが、これまでに回答があったのはベトナム、インドネシア、連合王国(香港)の3か国 である。
- 2. 【OC国際海洋資料交換作業部会第7回 会議について

7月9日~13日、ニューヨークの国連本部で開催された標記会議に出席した二谷海洋資料センター所長から、同氏作成の会議出席報告書に基づき報告があった。

なお、次回会議は1975年、ローマの FAOで開催される予定である。

また、この第7回会議化ついての詳細な 報告は海洋資料交換国内連絡会第4回会議 で行なわれることになった。 3. IOC総会第8回会議及び執行理事会第 3回会議について

11月2日~17日、パリのユネスコ・ハウスにおいて開催予定の標記会議の対処 方針について検討した。大要は次の通りである。

- (1) 派遣代表団の構成について:普原調査委員から、現在IOCの仕事が非常に多くなっているため、4名以上の人員により代表団を構成することが希望され、現在菅原調査委員、庄司大太郎氏(海上保安庁水路部参事官)が予定されているが、更に関係機関において努力のうえ決定することになった。
- (2) **IOC**会長立候補の支持について各調 査委員から意見が出された。
- 4. IOC特別拠出金について

事務局から、IOC海洋学特別事業の黒 潮特別事業として、黒潮海域海洋科学の推 進のために5万ドルの特別拠出金の予算要 求について説明があり、了承された。

5. 国際海洋探査 I 0 年計画(I DOE) に

IOC事務局から菅原調査委員に照会の あった本件については、同調査委員から次 のように回答することとなった。

- (1) IDOEプロジェクトについては、日本学術会議海洋学特別委員会(物理、化学、生物)にかいてそれぞれ検討及びまとめ方を努力している。
- (2) 米国のプロジェクト(Geosecs 並びにNorpax) へ日本が参加する件に ついては考慮中である。
- (3) オ ストラリアの I D O E プロジェクトへ日本から公式に参加はしていない。
- 6. Instrumentation Calibration and Repair について

IOC事務局から照会のあった本件(仮題、海洋測定機器の目盛り測定及び修理) については、現在日本には米国のインストルメンテーション・センターのようを施設 コないので、日本の毎洋機械メーカーに連絡して、日本において製作されたもの及び 修理可能な機械類の修理については、メー カーを紹介する用意がある旨回答すること となった。

 Shipboard training に関する服会及び Training projects in marine science and related subjects に関するコメント こついて

これらは共に海洋関係の研修プロジェクトに関する照会であるので、一括して検討された。これらの回答については**OTCA**で実施されている沿岸鉱物資源、沿岸漁業、海洋物理調査、水路技術、水産研究等の研修コースについて、及び北海道大学で行なう予定力海洋環境研修コースについて、菅原調査委員が取りまとめることになった。

8. 第 5 回東南アジア地域海洋学専門家会議 への出席について

12月4日~6日、香港でおいて開催される標記会議について、ユネスコ東南アジア地域科学事務所から個人資格での出席が 要請されていた元田茂氏(東海大学教授) の出席については、菅原調査委員から、同 氏の出席経費及び標記会議の詳細に関して 照合することになった。

第50回会議

亞時 昭和48年10月11日(木) 14.00~17.00

楊所 文部省第2特別会議室

議事概要

dim

1. 経過報告

タイから、CSK海洋汚染問題連絡官の 氏名の通報があり、この結果通報国の数は 4か国となった旨事務局から報告があった。 また、海洋資料センター吉田氏から次の 報告があった。(ロIOC事務局回章第427 分をもって、同センターはIOC刑行物・ 文書保管センターとして、昭和48年6月 分からIOC刊行物及び文書の特別配布を 受け、リファレンス・ポイントとしての機 能を果すよう依頼された。(2)海洋資料交換 国内連絡会が、9月25日、水路部で開催 された。

2. IOC総会第8回会議及び執行理事会第 3回会議について

11月2日から17日まで、パリのユネ スコ庁舎において開催される標記会議につ いて次のとおり審議した。

- (1) 日本代表団の構成を首席代表 菅原健 国内委員会調査委員、代表 竹内能忠国 内委員会調査委員、庄司大太郎海上保安 庁水路部参事官、平野敏行東京大学海洋 研究所教授、及びアドバイザー 寺田一参 新日鉄顧問の5名とする。
- (2) IOCの緒活動のうち、我が国として は、GIPME、IDOE及びCSK等のプログラムの討議について積極的に対処する。
- (3) 会長の選挙については、副会長(4名) の構成とのかね合いで考える。更に IO C主要国とも協議のうえしかるべく対処 する。
- (4) 我が国として、菅原調査委員の副会長 再任は辞退するが、必ず執行理事会のメ ンバー国になるよう努力する。
- (5) **IOC総会会議資料未着のため、対処** 方針は今週中に関係者の打合せ会を開か てまとめる。
- 3. 第 5 回東南アジア地域海洋学専門家会議 への参加者について

12月4日から6日まで香港において開催される標記会議へは、元田茂氏(東海大学教授)並びに堀越増興氏(東京大学海洋研究所助教授)が参加する。

第51回会議

日時 昭和49年1月14日(月) 14.00~17.00 場所 文部省第5特別会議室

議事概要

1. 経過報告

事務局から、太平洋建波警報組織国際調整グループ第4回会議は1974年2月4日~7日、ニュージーランドのウェリントンで開催されるところ、我が国から気象庁末広地震課長が出席すること、及び昭和49年度予算にかいて「海洋学特別事業拠出金」として3万ドルを拠出することが内定したこと等を報告した。

2. **IOC**総会第8回会議及び執行理事会第 3回会議について

この会議に出席した菅原調査委員から、配布資料、特に同委員のアプストラクトによる「採択された決議」のりも特に日本に関係深いものの要点:並びに出席報告書に基づき次の報告があった。

- (1) 総会に先立って、執行理事会第3回会 議が行なわれた。
- (2) 総会第8回会議は、この総会において IOC加盟国が76か国に達し、そのうち68か国並びが国連関係機関の代表が 出席して開催された。
- (8) 総会は、機構及び財政、科学活動、海洋サービス事業並びに教育訓練相互援助の4つのセッション・コミティーに分かれて審議を行ない、100の事業計画の現状及び将来活動に関する36の決議を全体会議において採択した。
- (4) 委員会の新役員について、総会は新会長に Dr. Humphrey(オーストラリア)を選出し、我が国は引続き執行理事会のメンバーに選出された。

また、特に我が国として、GIPMEに関する詳細計画の準備促進及び第2回国際調整グループ会議開催への努力を求める決議、第10回CSK国際調整グルー

プ会議の開催とそとにおいてCSKの将来活動の詳細を取上げるべきことの決議、IGOSSの現状及び今後の活動(1974~1976)の発展についての決議、梅洋汚染モニタリング・パイロットプロジェクトの決議、その他 TEMA(Training, Education and Mutual Assistance)、ASFIS(Aquatic Sciences and Fisheries Information System)及び信託基金等の事業活動に関する審議結果に注意すべきことが報告された。

なお、この総会に出席した竹内、店司、 平野、専用の各氏からそれぞれ感想が達べられた。

3. 第 5 回東南アジア地域海洋学専門家会議 について

1973年12月4日~6日、香港で閣 催されたこの会議に出席した堀越増興東京 大学海洋研究所助教授から、同兵並びに五 田茂東海大学教授の作成による出席報告に 基づき、この会議において審議された東南 アジア各国における海洋諸科学研究の現状、 海洋諸科学研究上での可能を援助、並びに 東南アジア地域の今後の重要課題として研 究者のトレーエング及び Coastal processes

4. 海洋環境研修コースについて

かねて準備中のこの研修コースについて、 竹内調査委員から、本年7~8月北海道大 学水産学部(函館)で実施することが内定 したこと、昭和48年12月にこの研修コ ースの講師打合せ会を開催した旨報告があった。

(2) 海洋資料交換国內連絡会

第4回会議

日時 昭和48年9月25日(火) 14.00~17.00 場所 海上保安庁水路部第4会議室 水路部庄司参事官の挨拶に続いて、二谷 海洋資料センター所長が座長となり議事が 進められた。

議事概要

1. 国際海洋資料交換作業部会第 7回会議の 田席報告について

7月9日~13日、ニューヨークの国連本部で開催されたIOCの標記会議に日本代表として出席した海洋資料センター所長より、その会議の議題の主なもの、即ち下記の議題についての審議概要が報告された。

- 2. Adoption of Agenda.
- 3.2 Information concerning rationalization of the Commissions's Subsidiary Bodies.
- 5.1 ROSCOP.
- 5.2 Format standardization.
- 5.3 Geological/geophysical data management.
- 5.4 Biological data.
- 5.6 Wave data as measured by instrumented methods.
- 5.7 Declared national programmes.
- 5.8 National coordinators for International Oceanographic Data Exchange.
- 5.9 Manual on International Oceanographic Data Exchange.
- 5.10 Marine pollution data.
- 5.11 International Experiments and Co-operative Investigations.
- 6.3 GIPME Related activities of SCOR.
- 6.4 IGOSS (Pollution related activities).
- 7.1 Manual on IGOSS data archiving and exchange.
- 7.2 IGOSS pilot project for the collection, exchange and evaluation of bathythermograph data.
- 7.4 Air/sea interaction.
- Education and training.
- 9. Arrangements for international Oceanographic Data Exchange.
- 11. Next session

なお、二谷海洋資料センター所長は、今 回の会議の総合的な感想を次のとおり述べた。

- (f) Format について進歩が見られたこと。 (新しいタイプ及び各種のタイプのため の新しい Format の試作によるそれの統一への動きが活発である。)
- (2) 海洋汚染をはじめ多くの種目での目録 作成や間合せシステムへの期待が大きい こと。
- (3) 本作業部会への他の団体やブロジェクトへのかかわり合いがますます増大しつつあること。
- (4) 開発途上国に対する援助ムードの拡大。
- (5) 国際海洋資料交換の国内調整官の役割 を各種目において拡大するよう強調され た。
- (6) 生物、地質、波浪など、データ交換種目が急速に増大しつつあること。 等の状況にあり、これに対処するためには、 我が国の海洋資料センターも急速に拡充する必要があると痛感した。
- 2. 海洋資料センターにおける海洋汚染データ及びその情報の収集並びに処理について 二谷海洋資料センター所長より本件を審 議することとなった経緯の説明があり、続いて同センター小森氏が海洋汚染データの 国際交換の動向、米国における海洋汚染データの 国際交換についての考察及び我が国における海洋汚染調査の概要を説明したのち、 今後の海洋資料センターの対処策として、 (1)収集の対象とすべき海洋汚染調査、(2)収 集すべきデータ及び情報の内容を述べた。

討議の結果、本件については約1か月後 に海洋汚染調査担当官によるグループ会議 (付記参照)を開いて、更に主として技術 的つめを行なうことになった。

3. その他

IGOSSに参加して実施されたBT観測に伴うBATHY Message Log(Mail)の送付については、改めて海洋資料センター

から文書で依頼することになった。 付一記

海洋資料交換国内連絡会第4回会議の決定に基づく汚染資料グループ第1回会議は、昭和48年12月5日(火)1400~1600、水路部第4会議室で開催された。(グループリーダー:渡辺海洋汚染調査室長)議事概要は次のとおりである。

議事概要

- 1. 海洋海染データ及びその情報の海洋資料 センターへの送付対象とする観測は、海洋 汚染調査フロジェクトに基づいて実施され た観測とする。
- 2. 各調査クルーズごとに必要な情報について海洋資料センター案を中心に検討したが、種々の問題点があるため、現在各機関で実施している海洋汚染調査の制定項目、分析法、機器等の実態を調査し、これに従って〇×式の記人フォームを作成することになった。
- 3. 各側点ごとに必要な情報及びデータについては、当分の間各調査機関で定めたフォームにより、複写物、印刷物等で海洋資料センターに送付することになった。

をか、これには各側点の位置、試料採取年月日、水深、水色、透明度、風又は浪、各架度における水温、塩分、酸素、 P H 及び各種汚染項目の測定値が含まれることが 望ましいとした。

4. データや情報の海洋資料センターへの送付は、各機関とも可能な範囲で過去にさかのほって行なうことになった。

(3) 国内海洋調查技術連絡会

第23回東北海区海洋調査技術連絡会

 $0.9.3.0 \sim 1.7.0.0$

場所。塩香港湾合同庁舎大会議室

議事概要

(本会議)

- 1. 開台挨拶 第二管区海上保安本部長 内野 豊
- 2. 昭和48年東北海区海況調查発表
- 3. 昭和47年東北海区の総合海沢について
- 4. 調查研究登表
- (1) 三陸沿岸にかける燐酸塩と硝酸塩の鉛 海分布につって 東北区水産研究所

佐野 差

- (2) 東北海区における栄養塩の分布 東北 大学女川実験所 荒井永平・東北区水産 研究所 武藤港一郎
- (3) 東北梅区の暖水塊の発生移動消滅に関 して 木対漁場研究室 木村喜之助
- (4) 昭和48年度寿洋資料センター業務報告 毎上保安庁水路部 吉田 昭三
- 5. 事務打合せ
- (1) 昭和49年度梅洋調査計画について
- (2) 昭和 4 9 年度の当番官庁について
- (北方亜寒帯海域に関するシンボラウム)
- 1. 八戸沖定線における海児の短期変動 気象庁海洋気象部 長坂 島豆
- 2. 八戸沖にかける測流結果について 函館 毎洋気象台 小村久美男
- 3. 八戸沖定線におけるクロロフィル及び珪 薬の短期変動について 気象庁梅洋気象部 佐野 昭
- 4. 北方亜寒帯域の海沢変動について 気象 庁海洋気象部 秦 克己
- 5. 暖水塊 5分色、移動。北海道区水産研究 所。北野清光。
- 6. 暖水塊の移動に関する初歩的な考察 東 梅区水産研究所 友定 彰
- 7 北方亜寒帯域の観測結果について 海上 保安庁永路部 野口岩男
- 8. 東北近海にかける暖水塊の消長 東北区 水産研究所 武藤清一郎
- 9. 暖水塊周辺水域の動物ブランクトンにつ

いて 東北区水産研究所 小達和子

- 10. 調査船、航空機等による暖水塊周辺の漁場 場海沢調査結果 東北区水産研究所 黒田 隆恭
- 11. 総合討論

第27回西日本海洋调查技術連絡会

日時 昭和48年12月11日(火) 09.30~17.00

場所。長齡県勤労福祉会館会議室

議事既要

- 1. 報告事項
- (1) 昭和 4 8 年度海洋調査経過報告
- (2) 水塊呼称検討の経過
- 2. 為議事項
 - (I) 昭和 4 9 年度海洋調査実施方針について
- (2) 次国の開催について
- 3. 調查研究発表
- (1) 五島西沖の梅底波動について(予報) 西海区水産研究所 見元孝一
- (2) 響難(若松沖)の流況について 第七 管区海上保安本部 益本利行
- (4) 黄海海域の海洋構造と変動 西海区水 産研究所 井上尚文
- (5) 東シナ海・黄海における夏期のクロロ フォル分布(速報) 西海区水産研究所 小館でに
- (6) 東シナ海のヤムシについて 長崎毎洋 気象台 松崎正夫

- (7) 東シナ海の表面水温20年平均値について 長崎海洋気象台 佐原 勉
- (8) 1972年~1973年の南方海域の 海況について 気象庁海洋気象部 増沢 護太郎

第3回南海•瀬戸内海洋調查技術運絡会

日時 昭和48年12月14日(金) 09.00~17.00

場所 高知県水産会館

議事概要

- 1. 報告、審議事項
- (1) 昭和48年度海洋調査経過報告
- (2) 昭和 4 9 年度海洋調査計画
- (3) 紀伊水道観測について
- 2. 調查研究発表
- (1) 大阪港堺区の港湾造成に伴う流況の変化について 第五管区海上保安本部 松田忠昭
- (2) 瀬戸内海の潮流(1)、燧灘の潮流について 第六管区海上保安本部 徳弘 敦
- (3) 瀬戸内海の潮流(2)、坂出沖の潮流について 第六管区海上保安本部 中能延行
- (4) 燧難における海水の収束発散の実測結果 南西海区水産研究所 坂本久雄
- (5) 瀬戸内海大型水理模型実験報告(1) 中国工業技術試験所 高杉由夫
- (6) 測量船「昭洋」による海洋調査について 第五管区海上保安本部 中川 久
- (7) 紀伊水道の海況 神戸海洋気象台 周 東健三
- (8) 豊後水道、紀伊水道における同位体元 素について 神戸海洋気象台 山本克己
- (9) 昭和25年以降の富栄養化現象の経年 変化について 南西海区水産研究所 永 田樹王
- (10) 香川県海域の懸濁物質について 香川 県水産試験場 渡里 登
- (11) 広湾の汚染調査結果について 中国工

業技術試験所 世名吉一郎

12) 貧酸素水塊の出現とカキの成育について 広島県水産試験場 木村知博

第28回日本海海洋調查技術連絡会

百時 昭和48年12月12日(水) 場所 新想会館

義事股要

- 1. 協議連絡
- (1) 昭和 4 8 年海洋観測経過の概要について
- (2) 昭和49年海洋観測実施計画について
- (3) 昭和4-8年の日本海の海洗ことって(大客は付記参照)
- (4) 海洋資料センターの業務のつめて
- 2. 調查研究発表
- (1) 佐渡沖の海流について 第九管区海上保安本部 鈴木兼一郎
- (2) 日本毎の汚染調査について 舞鶴海洋 気象台 古暦賢造
- (8) 日本海の新しい平均水温分布図について 日本海区水産研究所 長器光亮
- (4) 真野湾の栄養塩と海沢について 日本 - 痴区水産研究所 水原正信
- (5) 佐ر (6) 佐ر (7) 佐ر (7) 佐 (

什 記

昭和48年の日本海の海況

第28回日本海海洋調查技術連絡会発表 構成機関

舞鶴海洋気象台

第二管区海上保安本部

第八管区海主保安本部

第九管区梅上保安本部

施上自衛隊舞鶴地方総監部

日本海区水産研究所

1. 全般的な海沢の推移。

対馬暖流域と寒流域との境界を示す前線

帯の位置は、能登以東ではほぼ平年並みで あったが、能登以西では前年と同様に平年 よりもかなり北偏していた。

暖流域の表面及び50m層における水温 は、前年に引続き全般的に平年並みかでや 高めに経過した。

対馬暖流は、1月から4月までに鬱凌島 付近、隠岐沖、能發沖、佐渡神などに形成されていた大規模暖水域の縁辺全大きく蛇行 していたが、5月頃から蛇行現象が作る場 まり、8月頃から蛇行現象が強きこれ。

越前畔北西沖断面における北上流量(500 db 基準)に、2月: 207×10°m/sec、5 月: 298× 10°m/sec、7月: 36.4×10°m/sec、7月: 36.4×10°m/sec、7月: 36.4×10°m/sec、7月: 36.4×10°m/sec、7月: 28.6×10°m/secで、平年に比べて2月が少なく、7月がやか多く、5月と9月にほぼ平年並みであった。

企水域は、浜田北方、隠岐北西、経ヶ岬 北方、龍登北西、佐渡北西などに存在していた。それからか全般的な動きは、1~6 月と9~10月に接岸蛸向を示し、6~9 月に難岸傾向を示していた。

(注:) 水温の平年値は1953~1970 年:)18年間の値を使用した。

2. 各月の海流

1月:暖流域の水温は、表面から100 m層位すでほぼ等温になっており、前年12 月よりも2~3℃降温していた。平年比で は、鳥取、兵庫の両県沖と能登沖で1~2 で高く、その経かは並であった。

能登以西では、浜田北方80M、隠岐北西60M、経ケ四北北東60Mなどに含水地が形成されてかり、土れらの南線にあたる浜田北方50M~隠岐北方50Mを結ぶ付近と兵庫県~能登西岸にかけての難岸30M付近な上にに、それぞれ北東へ向かう流れがみられた。

能登以東江、観測資料が少なく詳細は不明であるが、人道給付近では西方許合から 整理する滲水が強い模様であった。

- 2 月:暖園城における50m以後の水温

は、前月よりも 1 ~2 ℃降温していたが、 平年に比べると、亜岸 8 0 Mまでの本州沿 岸域では並み、それよりも沖合では 1 ~3 ℃高めであった。

対馬暖流は、鬱陵島付近、隠岐北沖、能登北沖、佐渡北沖などに形成されている大規模暖水域の緑辺を大きく蛇行して流れていた。その流軸付近での表面流速は1Kt以内であった。

今水域は、各暖水域が存在する海域の中間にあたる132°30 E線付近、135°30′E線付近、大和堆東端と佐渡を結ぶ付近などに、沖合から本州沿岸に向けて舌状に張出すように形成されていた。

3月:暖焼域における50m以機の水温は、前月よりも隠岐以西で $1 \, {\rm C}$ 弱、それ以東で $1 \, {\rm \sim} 2 \, {\rm C}$ 降温し、年間の最低を示した。平年比では、前月とほぼ同様に本州の沖合80M付近を境にして、本州沿岸側が並み、沖合側が $1 \, {\rm \sim} 3 \, {\rm C} \, {\rm O}$ 係めであった。

対馬暖流は、能登以西の沖台では明らかでないが、能登以東では蛇行しており、流軸付近の表頭流速は1Kt 内外であった。

冷水域は、前月からみられた舌状のものが引続いて存在し、能登以西に分布するものは南西方に20~30M、能登以東に分布するものは東方へ20Mほど、それぞれ移動していた。

また、人道培付近で陸岸に接近していた 冷水域は、約50M北北西へ後退した。

4月:暖流域における50m以後の水温は、表面と50m層と2間で1℃の差がみられた。表面、50m層と2間で1℃の差がみられた。表面、50m層水温ともに、能登以西では低極期を脱して昇温期に転じ、前月よりも1℃ほど高くなっていたが、能登以東ではほとんど昇温しなかった。平年に比べ、表面水温は全般的に並みへ、50m層水温は島根県神70M付近などで2℃の高めを示しているところもみられたが、全体的には並みのところが多かった。

対馬暖流は、前月とほぼ同様であった。 各冷水域は、前月よりも全般的に東方へ 20~30M移動していた。

5月:暖荒域の表面水温は、前月に比べ 2~4℃昇温した。平年比では表面、50 加層とも可様の傾向を示し、本西神合100 M付近を境にして本州寄りが並み、神合側 が1~3℃高くなっていた。

対馬暖流は、沖台では蛇行性が弱まって、 本押に平行するような傾向が強かった。流 軸付近における表面速流は 1Kt 内外であった。沿岸付近にも整岸に平行する 0.8 Kt 前後の流れが観測された。

令水域は、浜田北方70M、隠岐北西60 M、経ケ岬北北西55M、能登北西50M、同北北西90M、佐渡北西50Mなどにみられ、本州に平行する一連の低温域を形成していた。各冷水域の前月からの動向をみると、浜田北方のものを除いてやや動きが大きく、佐渡北西のものが約50M南方に、そのほかは東方或いは北東へ50~60M移動していた。

6月:対馬暖流域と寒流域の境界を示す 前線帯の50m層における位置は、入道埼 西方60M付近を境にして、以西では40° N線付近に、以東では139° E線付近に みられ、能登以西では平年よりも30Mほ ど北寄りになっていた。

暖流域の表面水温は、前月よりも2~5 で昇温したが、平年比では並みのところが 多かった。50m層水温は、鬱陵島北東50 M付近と佐渡北西45M付近などで平年よ りも2で以上低くなっていたほかは、並み か1~3で高くなっており、特に、沖合に 形成されていた帯状暖水域付近では3での 高めとなっていた。

対馬暖遊の沖合の位置は、前月に比べ、 能登以西では変化がやや大きく、隠岐北西 で約30M北偏、経ケ岬沖で60Mほど南 へ移動していたが、能登以東ではほとんど 変わりはなかった。沿岸付近では前月とほ ぼ同様であった。

各冷水域は、前月よりも全般的に南西或いは南方へ20~30M移動していた。

7月:暖流域の表面水温は、前月よりも4~5℃昇温した。平年比では、能登以四の本州から120Mまでの海域で並みであったほかは1~3℃高かった。50m層水温の平年比では、沖合の帯状暖水域に相当する隠岐北方130M~人道埼を結ぶ付近で1~3℃高く、沿岸の冷水域が存在する付近で2℃以上低くなっており、そのほか本州沿岸一帯は経営平年並みであった。

対馬暖流、経ケ岬沖合で著しく南偏していた前月の状態が5月の位置まで回復し、また、隠岐北沖で20Mほど離岸した程度でほとんど変わりなかったが、能登北沖から佐渡海峡へ流入する流れが強まってきた模様であった。

冷水域は、5月以降の帯状傾向が最も顕著になっていた。その中心は、浜田北方110 M、隠岐北西130 M、経ケ岬北方60 M、能登北西80 M、佐渡西北西70 Mなどにみられた。前月からの動向をみると、隠岐以西に分布するものは北方へ、隠岐以東に分布するものは西方へ、いずれも30~40 M移動していた。また、5月以降不明瞭ながら存在していた直圧津沖25 M、象鳥西方30 Mの小規模冷水域は、やや明瞭になっていた。

8月:暖焼域の表面水温は、前月よりも3~4℃昇温したが、全般的に平年並みであった。しかし寒流域では夏の高い気温の影響を受けて全般的に2~3℃平年より高くなっていた。50m層水温は、前月とほぼ同様に、本州から約170M離れた沖合の帯状暖水域にあたる付近で、平年よりも2~6℃高くなっており、その南側の本州寄りの海域では、浜田北方60M、同150M、能登北方90M、栗鳥周辺などで、局所的に2℃以上低いところもみられたが、そのほかは平年並みか1℃の高めとなって

いた。

対馬暖流は、前月の位置とほぼ同じとと ろにみられ、表面流速 $1 \, \mathrm{K} \, \mathrm{t}$ 内外で、大和 地西端付近と能登北西 $4 \, \mathrm{0} \sim 7 \, \mathrm{0} \, \mathrm{M}$ 付近で $1 \sim 1.5 \, \mathrm{K} \, \mathrm{t}$ の流れがあった。

各冷水域は、単月に比べ、能登以西に分 何するものは南方或いは南西へ、能登以東 に分布するものは北方へ、いずれも30~ 50M移動していた。

9月:対馬暖流域と寒流域との境界を示す前線帯の50m層における位置は、人道 湾両方40M付近を境にして、以西では40° N線付近に、以東では139° E線付近に みられたが、その位置は、平年に比べ、能 登以西で北に、人道埼沖で東に、それぞれ 偏していた。

暖流域の表面水温は、降温期に転じており、前月よりも1~2℃低くなっていた。 平年比では、全般的に並みか1℃高めのところが多かった。50m層水温の平年比では、距岸30Mまでの本四沿岸で2~3℃高く、それより沖合は、冷水域が存在する 隠波北西120M、能登西北西60M付近及び入道埼西方などで3~5℃低く、暖水域が存在する海域で4~5℃高くなっていた。

暖水域は、これまでの帯状分布がくずれ、 鬱陵島付近、隠骸北沖、能登北沖、佐渡北 沖などからそれぞれ沖合へ張り出していた。

対馬暖流は、暖、冷水域の分布状態が変わったこととあいまって、南北方向の蛇行が強まっていた。なお、人道塔沖〜准軽海峡西口にかけての距岸10〜20M付近では、表面流速2Kt前後、最大28Ktの強流が観測された。

 北西100M付近で40低く、経ケ年む560M付近で並みであったほかは2~40高くなっていた。

対馬級流は、器談地方100M付近から 北東へ向かい、大和維付近で方向を転じて 能登北西50M付近に至り、その後津軽海 峡西口に向かってほぼ直行していた。その 南側には帯状の暖水域が形成され、暖水域 の南縁にもたら地登以東の距岸40M付近 には、霧い反流がある模様であった。 治電 では全般的に弱きっている模様であった。 治水域に、紅田北方80Mのものが難岸傾 向を示し、そのほかは接岸傾向を示した。

(資料出所:気象庁、舞鶴毎洋気象台、海上保安庁、第一・二・八・九管区毎上保安本部、海上自衛家舞鶴地方総監部、新館・青森・秋田・山形・新潟・富山・石川・福井・京都・兵庫・鳥取・島根・山口の各道射県水産試験場、日本海区水産研室所

2 国 際 会 議

(1) 国際海洋資料交換作業部会第7回会議

本誌前方においてその一部について売べ たが、本号では今少し詳しく述べる。

本作業部会は国際海洋資料交換システム(世界センターA、B(海洋学)、各別園立海洋資料モンター、特殊専門エンノー等により構成される)の発展を促進し、資料処理、貯蔵、交換等における技術的問題等を検討し、国際交換事業に於ける基本的指針を作成評価する役目をもつ、政府間毎洋学委員会(10℃)の下の作業部会(全年1月1月6年に設立された。この作業部会会議で採択された事項(決議、勧告、その他)は、10℃総会で承認されたりは、10℃の決議として採択されたり10℃回避として各国に通知しその実行を促される。今回の会議に昭和48年7月9日~13

日、ニュニョークの国連本部で開催され、 IOC加盟国26ケ国及び関係国際8機製の代表が参加した。我が国からの代表としてご谷額男(海洋資料センター所長)、彦坂繁雄(前河所長)が参加した。

議題は非常に多いが、そのうちの主なものは、IOC事務局及び関係各機関の報告に始まり、ROSCOP、交換用フェーマット標準化、海洋地質地球物理、海洋生物、衛星、波浪、海洋汚染等のデータ及び情報管理、宣言国内計画、国際海洋資料交換便覧、国連人間環境会議に関連する情報管理、Sで料目・多機関間資料情報管理、IGOSSデータ(ノンリアル)、海洋大気相互作用データ、発展途正国の教育訓練、国際海洋資料交換システムの調整等である。

個々の議題の内容を一々説明することは 省略して、全体的な主な結論及び総合的感 想としては、

- (1) 交換用フェーマットについて格段の発展が見られたこと。(新しい型をも含んで各種の型のデータに共通して使用し得る統一フェーマットの原理と、その試作によるフェーマット統一への動きが前進しまこと。)
- (2) テスト段階をも含めて、生物、地質、 波復のデータ・情報の国際交換を開始する段階に達したこと。
- (3) 海洋汚染始め多くの種目で、今すぐ国際資料交換の不可能なものに対する資料 貯蔵目録や、或いは資料交換に伴りべき 必要事項を記入した文書等による照会サ ビスツステムへの期待が大なること。
- (4) **IOC**や他の国際機関の海洋プロジェクトの発展に伴って、本作業部会のそれら小のかかわりが益々増大しつつあること。
- (5) 各種目データの国際交換の必要性の増 大に伴って、国際海洋資料交換の国内調 整官の役割が拡大されるとともにその責 任が重大になったこと。

- (6) 既存の国際交換システム強化の手段として、責任に地域。国立センター(世界の海至いくつかに区難してその海域の資料についての一切の責任を担当する。一の必要性が承認され、すでに実施計画作成の投帯に入っていること。
- (7) 開発途上国に対する国際資料交換サービス面での訓練教育援助の気運が熟成 つつあること。

等であり、この様な国際的なニーズに応じ、 海洋調査研究の高いボテンシャルを有する 我が国としての義務を果し、且つ国内の増 大する要求に応するためには、我が国文紙 立海洋資料センターの急速かつ大巾な増強 が何よりも先行すべき問題であるとの感を 再確認させられた。

一 厳終日に採択された決議、勧告、新たこ 設立された作業ナームを次に記す。

決議 1 海洋汚染質料 国際海洋資料交換作業部会員、

海洋汚染資料特別グループの最初の報告を受けたが、比のグループがその付託 事項を果す段階として、データ交換あるいは照会の見地から、本作業部会に最も 直接的正関係ある汚染物質の交換の取扱い範囲(即も殺虫剤類、石油生産物類、 或る種の重金属類)を決めるための本質 的な考察を行ったことに満足をもって注目し、

国際的に認められた分析技術や基準が不足していて、定常的な海洋汚染資料交換に限度のあることを認め、又それ故暫定的には、特別によく文書化された叙述的な資料貯蔵目録又は索引を基礎とする資料問合せサービスを信頼すべきことを認める。此の様な目録は自動化取扱いし得るので有効な国際交換メカニズムたり得るであろう。

żί

責

いろんな非公式な貯蔵所に保管されている既存の海洋汚染資料を確認し、また それが基線研究や傾向解析に役立つかる。 かを評価する手致としての問合せのため 毛は、この様な貯蔵目録が有用であることを再確認する。これらのデータに対し て甲央集積化(国立、地域センター、 電機関、研究所を通じての)が期待出来 るようにたれば、体引を得るための努力 は有意義を結果を与える筈である。特に 国際資料で換いための国内調整官を指名 している加盟国では、貯蔵目録作成人た わて国家的努力を集中させるために、同 調整官の能力を使用すべきである。

更に、IGOSS、GIPME、CSK、CIM 等の様な諸計画の海洋汚染分野に対して、本特別グルーツが与え得る潜在的援助能力にも注目し、カナダ、英国、ソ連をメンバーに加え、ICESや WMOからのオブザーバーの参加を招請し、更に次の事項を加えて付託事項を改訂し、本特別グルーフを強化することを決める

「IGOSS資料保管・交換つ等別タルフと密接に魅力して、発展金上のIGOSSパイロット計画の中の海洋汚染監視モニタリアグに対して、着料貯蔵日鉄、文書標準、照会システム等に関する支援を与え、またIOCのIGOSSに関する梅洋専門家グループ(IRES)の中の油及び海水中磐存成分に関する特別タループと連絡を保つこと。

各国の国際海洋資料交換の国内調整官や、国際調整グループ、科学管理グルプ、諮問団体のメンバーの注意を、本作業部会が海洋汚染資料に関する管理の調整や計画の面で、かれらの適切を努力に対して援助し続けたいと希望している。特に照会システムの可能対象に関する。特に照会システムの可能対象に関する。特に照会システムの可能対象に関することに注目し、また海洋海、中華の東等が増大していることに注目し、また海洋海、中華の大力として、これらの可能性を発展させるための共同作業が行われ

ることを懇請する必要がある。

更に国際海洋資料交換のための個内調整官と連絡して、国際交換の潜在的手段としての海洋汚染資料の文書化された目録の概念の発展について詳細に説明し、かれらの国で継続中のまたはその国が参加している地域的な海洋汚染研究に関連して、この概念を考慮且つ発展としめる様にとかれらに要求し、

更に本特別グループが進めている目録 とが照合システムの既念に関係している 科学者やデータ管理専門家の意見の、本 グループ議長への連絡を開始するよう決 定し、

本特別グループは、既存のROMBI(毎洋生物調査結果)やEDBD(環境データ目録)の様な環境に関する目録や照会 システムが、本特別グループの第1回報 告書で進められている海洋汚染資料及び 情報の交換メカニズムとして使用し得る か否かについて検討、評価し、更にその 内容を本作業部会の第8回会議に報告することを合ずる。

決議2 - IGOSS資料の記録保管及び交 換に関する便覧

国際布洋資料交換作業部会は、

IGOSS 資料の記録保管及び交換に関する更能の第3 板草稿、ならびにIGOSS 資料の記録保管及び交換に関する特別グループ議長の報告をよろこんで受理したが、

WMOの海洋気候学に関する作業部会 メンバーの作成した本便覧第2版草稿に 対する意見に注目し、

本特別グループ議長に対し、上記意見 を考慮に入れて便覧を適当に修正するよ う指令し、

便覧の出版を、義務的な資料処理』と *計画の手引き』の二部に分けるように との補足文書にある勧告1と2を承認し、 この便覧の第3版草稿を1PLAN(IGOSSの為のIOC ∕WMO 合同計画グループ)に提出することを承認し、

【PLANがこれを採択するよう勧告する。 更に本特別グループの構成を再検討し た結果、次の会議までの間の構成を下記 の様に決める。

米国(議長国)、英国、ソ連、カナダ、西独、仏、日本、WMO、ICES、FAO本特別グループがその付託事項に従って、資料の記録保管及び交換に関する件についてIGOSSの作業委員会を援助し続けること、及び本便覧やそれに伴う記録書や指導要項を常に検討しつづけることを再び強調する。

勧告1 フォーマット(書式)の開発 国際海洋資料交換作業部会は、

既に ICESや他のセンター等で使用中の国際資料交換のための国名のコードを採択することを承認し、新しいフォーマットの一般的構成に関する提案が、この様なフォーマットの開発のための一つのモデルとして採択されることを勧告し、

更に米国海洋資料センターによって提案された、いろんな異なった種類の資料のための統一的フォーマットが、資料の記録保管や回収の実験の目的で採用されることを勧告する。このフォーマットは、WDC-B提案の多くの要素や、上述の一般的構成の要素を含んでいる。(但し本作業部会は、ICESの資料の様な歴史的な海洋物理学資料の貯蔵が既に莫大であることを認め、またこれらのデータは国際交換に共通して使用されているので、今後何年間かは特別な分野に於いて交換用フォームマットとして受け入れられる

動告 2 海洋地質資料管理 国際海洋資料交換作業部会は、

ことを提案する。)

貯蔵目録は、照会機構として、並びに すべての資料の二つ父はそれ以上の世界 資料貯蔵所への集積化の代替物として、 いかなる国際資料交換計画に与っても重 要な役割を持っていることを思い起し、

【OCの決めた多種目由の貯蔵目録書 式 ROSCOP 、毎年調査から収集された 資料でサンフルにつってご報告)がまで に存在することに注目し、

1969年12月キールで開かれた台 EIUGS CMC - Unesco SCOR会議で の、海洋地質地球物理の科学者にために はROSCOPはW第三次 - コモ州の自録によって強化される。まであるという結論を再確認し、

日録サードで計画に行って、単に受け 人れられた** 「次・一キ**日録形し、「G
GCI 国際地位地対物理航海日録:沿車 びよく宣伝されるへきであり、終局的に は、「O C事務局はWD C (知洋学)」が 管理する「G/GCI 日録計画 ニー上音を 換起さば、比と計画、ハ科学組分の支持 を要請する国際の利力を電立される。き であると勧告し、

海洋学研究委員会(SCOR: 二護事録 VOL: 8, Na2(1972年12月、フルイナ)で、SCOR小古代海洋学に関すった 業部会よりが強調している、定期調査から収集された地質資料の基本的叙述を行うというさし迫った必要性では目して、

IUGS(国際地質科学連合)のCMG (海洋地質学委員会)や、COGEODATA (地質資料貯蔵・自動処理・回収委員会 のような国際科学機関によって与えられた、提案中のフォーマットに対する意見 を考慮に入れて、

フィーマット開発特別プローブが提案 した新しい資料交換フィーマット開発に 関する原則をも考慮に入れて、

毎洋地質地球物理資料管理実会時別グループが、フォーコット標準化時間グルーフの指針に適合する様に調整して開発した、国際海洋地質資料フォーマットの有効さをデストするつもりで、全後2~3年間標準国際交換フェーマートとして

近く 同盟国間に使用され、2000 ことを勧告し、またの増展によい使用経験と、新たび見出された問題点を、IOC事務局に設行するように動作する。

表示。 自事として、地質地球物理学 食料管理學養育別です。マコ、メルバ を改程・一、海洋の比球物理学資料の記 練保首に交換 エエニ 担党とフィーマッ トを開発することを勧告する。

勧告3 波浪資料管理

压器品评价科交换作業部会主、

* 若「よる被混食料炎換」等機を得しました。 「「一日要でもしたいうことで、被殺資 村中間では、、設立されたも何業部会か 作業モームの仕事の完成に先立っての被 過資料交換の要求を認識し、

勧告 1 多種目多機関間の資料・情報の 管理がよび照合

国際海洋資料交換作業部会員、

本作業部会と第6回会議で提案されく 勧告30、10C社会第7回会議で承認された、勧告VII 25元、多種目多機関にむする資料と情報。管理及び超会に関する合同作業チーム(FAO、LAEA, IHO、IOC、WHO、WMO、の概念を支持するととを再確認し、それを通じて合同作業チェンコ10Cに報告する機構を準備するこのに、はニニーニの継続することが望ましいよとの場合。

現在4年で WHO、世界保健機関。、1HO・画際 水路機関。、サラ油で有害物資による由 等海梁で関連すら1MCO、政府間海事協 張機関。ア、ケ合同作業カートの活動に 参加するように、1OC事務局の設分以 を再発行するよう要求し、

環境情報源への、バイロット的な国際 照会サービスを国連環境計画管理審議会 第一回会議(1973年6月)までに設 立するようにとり、国連人間環境会議の 勧告91と101とを考慮して、国連環境 境計画の枠内での、国際的関合セサービスの試験的設階の発展を援助する目的で 設立されるいかなるメカニズムにも、IOC からの本合河作業チームのメンバー(及 ひ議長)に、適当な限りモカノンバー(及 ひはオブザーバーの地位を与えるよう取り 決めることを10C事務局長の権限で行 なうととを勧告し、

更に I O C 事務局は、海洋学計画から 生ずる又は関連ある情報の交換、接授、 回収が容易になるために、本国際海洋資料交換作業部会の付託事項(I O C 決議 V-20 A で設定された。)を改良する 手段を考察し、助言することを勧告する。 勧告 5 大気/毎洋 相互作用 国際海洋資料交換作業部会は、

IOCやWMOの活動に沿った計画が増加して、大気/海洋相互作用域からのデータが多数発生するだろうと子想されていることで、大気に関するデータはBATHY、TESAC、海流、波、海氷データと関連して通常よく使われること、及び海洋資料センター、気象費料センターではいくつかの海洋学と気象学データが重複していることを認め、

WMOとIOCは、資料処理・管理・ 貯蔵・交換のよくばた問題を取扱っていること、大気/海洋相互作用域からのデータについて互に関心を持つていること、 毎洋の大部分の海域に於て国際的研究事業やその実施計画の維持が増加している こと、データ処理問題や処置についての 合同的な考察は、共通に関心ある分野に かける資料記録保管の効果的管理をより ー層可能ならしめるだろうことを考慮し 70

WMO/CMM の第 6回会議で、WMOは I O Cと密接な作業関係を必要とすると決めてことに注目し、本作業部会の議長と、CBS(WMOの基礎システム委員会)やCMM(WMOの海上気象委員会)の議長が相談して決める、小数の専門家からなる大気/海洋相互作用資料のための合同10C/WMO グループを設立することを勧告し、そのグループは次のことを行なうべきである。

- (a) 海洋環境データや、それから住する特殊なデータ加工物の型や性質を 決めるために、IOCやWMOに関連ある国際的な大気/海洋相互作用 研究や実験の科学的計画によく目を とおすこと。
- (b) 記録保存のために同意された最良 の資料処理方法に関して忠告することにより、この計画を援助すること。
- (c) 将来の大気/梅洋相互作用研究及 ひ実験で使用する資料処理方法や、 データ書式(フォーマット開発の特 別グループとの共同作業として)に ついて適当に勧告する。
- (d) 海洋、気象雨関連種目の国際資料 記録保管及び交換システムの枠内で 大気 /海洋相互作用資料の取扱に関 して勧告される処理方法や問題につ いて、IOCの国際海洋資料交換作 業部会やWMOのCBSやCMMに 助言を与えること。

勧告 6 教育と訓練

国際海洋資料交換作業部会は、

開発途上国が、全面的に海洋研究に参加するためには、自国及び国際的な要求 に合致するような自国の海洋科学の発展 や専門家の増強を必要とすることを認め た上、

既に、IOCの訓練教育相互援助作業 部会が、開発途上国の海洋科学の発展に 関する後助を与えらため、及び興発途上 国からの人材に利すらために、IOCや 海洋関連科学計画事務制間委員会(IC SPRO)の乗船特別研究員制度の処置を、 双務協定ベースで考慮するよう海洋技術 先進民に懇請するための適当な手段をと っているととを知って、

国際海洋資料交換作業部会の使命は…なかんずく*国立海洋資料コンター発展のための援助*にあると規定したIOC 決議Ⅰ-9を思い起し、

いくつかい開発途上国 つ国立海洋資料 センター設立への強い関心にも注目し、 できるだけ多くの国が全世界的規模で 海洋資料収集・処理・貯蔵・国際交換に 努力することの重要さを確認し、

この様な全世界的努力に全面的に参加している多くの開発途上国が、訓練された人的資源、必要な設備、その他の財源の欠如故に当面している困難さを知り、

国際的に後援された訓練教育計画による、これら開発途上国の能力改善への貢献の重要さをも認め、

10 C事務局は、開発途上国の国立海 洋資料センター設立又はその発展における各国の特殊な必要事項をも考慮に入れて、相談サービス、専門家交換の増進、必要な設備の供与を含む、すべての必要な援助を与えるために、適切な手段をとることを勧告し、

米国が、IOCと協力して、米国海洋 資料センターにおいて、開発途上国から の参加者に海洋資料管理の有益な訓練の 便宜を与えていることを賞賛し、

同様な訓練の便宜を1974年乃至は 1975年から利用可能ならしめるというソ連の提案(今回の本作業部会での) を感謝をもって注目し、

他の技術的先進国も、開発途上国の人材に対して、船上訓練をも含む同様な訓練の便宜を与えることを考慮するように

との希望を表明し、

海洋資料管理の専門技術の発展は、訓練教育分野における地域的共同作業を通じて促進されるだろうと考えられる。

本会議に於いて新たに設立された作業チームについて簡単に紹介する。

 国立海洋資料センター設立の手引き のための作業チーム

構成:米国(議長)、カナタ、コロン ビア、ノールウェー、タイ、英、 ソ連、FAO(オブザーバー)

目的:国立海洋資料センターの発展及 び運営工手引きの準備

2. 全世界大気研究計画(GARP)大西 洋熱帯実験(GATE)資料管理のための 作業チーム

構成:英国(議長)、ブラシル、仏、 西独、米、ソ連

目的:GATEの国際科学管理グループ (ISMG)をして、IOCの資 料管理活動をよく知らしめ、 GATEの即時的資料の管理目的 を本作業部会の目的と調和させ るようにすること。

 波浪資料資理のための作業チーム 構成:カナダ(議長)、ブラジル、仏、 西独、日、蘭、ノールウェー、 英、米、ソ連及びECORとWM Oからのオブザーバー

目的:個々のデータに伴う説明を確実にするために、波浪資料交換に伴うべき必要最小限度の文書を確認すること、及び波浪データの記録保管や交換に必要な手段、技術、フォーマットを勧告すること。

(2) 政府間海洋学委員会第8回総会

標記会議が1973年11月5~17日、 パリのユネスコ本部で開催された。新規を 含めて加盟 7 6 ケ迎 からららら 8 ケ国か参 加し、我が固からは首席代表菅原健博士。 代表として他占能忠、庄司大太郎、平野敏 行、寺田一修博士小出海した。

生な議題は、前国総会以後命会議までの 赭活動心検討(前回次議、執行里事会、1 O C 附属団体、 落門団体 つ活動について 、 LOCに関連ある諸機関:活動、UN FAQ WMO、IMCO等等。海洋調查研究長期拡大 計画、LEPOR)、)活動(IDOE、GIPME 等人。国際共同製作(CSK、CICAR …等 8 記無について)、100の調整するサーロ >業務(IGOSS、每洋汚染、国際資料交換、 大平全津政警報等 / 、訓練教育相立援助。 事業集合財政、IOCの下部機構、迅速拡 大海底平和阿阳委員会へ工忠告及任瓦連衛 (毛法会議へに対策、100委員長、副委員 長、執行理 難聞、越常等多形であり、もご 内容にいいては簡単に要約し切れるもって はないが、抜すい的にもつかちのへくつか よついて略述すれば次し通りである。

- 布件機会10年計画(1DOE)について名間、単急支計画実建と実施が催促すること。
- o 海洋環境汚染全世界的調查(GIPME) に関しては、複雑な海洋汚染問題率決点 必要な科学的研究を促進、調整、指導するための情観が存立られるよう努力する こと。
- 1975年初起に、馬蘭共同調査(CSK)の第10回CSK満整ケムープ会議を開き(東京)、つづってCSK海域を発き(東京)、コップを開催すること
- 予し整CSK将来活動の詳細をとり上 は、第5回10C執行理事会以前に適当 を要案をなすこと。
- N F1. N ino *現象ニンコで、FAO、W MO と共当で1974年ニワークションクを企画し、この現象ニンコニ現出歳コ分析と、理解・予報ニケわい問題点と発見、関係近接課号で10℃、関連者機

関い能力による共同調査計画の設定を考 関すっこと。

- IGOSS 事業「各国がより「層具体的な各種の前での計画を立案して進展ではあるよう要望することもは、この事業への資無者でもあり、また利用者でもあるFOA関係与参加が要望されたこと。
- o IGOSS枠内での海洋汚染モニタリンクパイロットプロジェクトとして、物理学的なびあく種の化学的性質に関してたが企事とよります、1974年1月までは、各国に如何なるパイロットプロジェクト生殖に対する用意を持つか、それについての第二週整員を報告することを求められている。父GIPMEに対しては試料が展りがあるが、それといりがあるが、アングからのデータ・当報ニ処理失換力法の開発を、父TEMAにより、理算に関する研修上の援助をそれでは表請すること。
 - 開発途包園のために、海洋科学管理者 力養成、乗船訓練、トラストファンドの 使用、地域当後センターの設立、海洋学 教科書・マー、アル等の刊行、若年科学 者の養成等各種サービスの実現に努力すること。
 - o IOC予算の増大の途を薄すること。
 - o 委員会の「部機関の組織の合理化をは かるとめ、常設の委員会は国際海洋資料 交換、訓練教育相互援助、IGOSSの三 つり作業委員会とすること、その他のグ ループとしては現状のまま存続するもの (GIPME TIGOSS作業委員会の下部 組織等。や廃止(GELTSPAP) するも 上が決定された。

 - o 前10℃委員長W. Langeraar(蘭 ウ 任線選手に当っ、新たて豪烈のHumphで

rey が委員長に選ばれ、同時に副委員長 であった菅原健氏等もその職を退き、副 委員長には H. U. Roll (西独)、G. Serpolanu (ルーマニア)、A yala Castañares (メキシコ)、E1-Wakeel (エジブト) 氏等が選ばれた。

- 新執行理事国に、ブラジル、カナダ、コロンビア、フランス、ドイツ、イタリー、日本、ケニヤ、ノールウェー、ボーランド、セネガル、ソ連、英国、米国の14ケ国が選ばれた。
- 次例の第9回総会は1975年バリで 開催されること。第4回執行理事会は 1974年6月カナダのオタワで開かれること。
- 全般的な感想として、開発国と開発途 上国との本委員会に付する関心に若干の ギャップが認められること、即ち本委員 会は本来海洋研究技術の発展のためのも のであると云う立場と、国連下に於ける 直接的な国際政治の場であるとする立場 との相異が目立ったとの出席者の感想も 述べられた。

なお、上には述べなかったが、国際無洋 資料交換に関して本会議で採択された決議 WI-21は次のとおりである。

決議剛 - 2.1 海洋資料管理 政府間 - 海洋学委員会は

梅洋学データや情報の記録保管と国際 交換は、国際協力や海洋の性質や資源 つ 研究の進歩のために必須のものであることを再確認し、

国際毎洋資料交換作業部会(IODE) が、有効な資料管理の実施を創始し、また発達しつつあるデータ取得システムに 関連あるデータの管理や、世界、地域、 国立海洋資料センターに対する将来の要求や、それらの責務の研究に従事してきたことに対して感謝をもって注目し、

IOCが、各学科目間に渉る海洋汚染 データやその科学的情報の服会の可能性 を持つようにとの、国連人間環境会議勧告 9.1 を思い起し、

国際海洋資料交換作業部会第7回会議 の報告を承認し、

開発および実験の目的のため、各加盟国が、

- (a) 海洋生物学資料の配布や欠換を容易ならしめる目的で使用すべく、海洋研究科学委員会(SCOR)と海洋資源研究諮問委員会(ACMRR)作業部会32(文書IOC TODE VITZINF.10)が合同して開発した、海洋生物学調査結果(ROMBI)のような二次レベルの時蔵目録形式を使用すること。
- (b) フォーマット開発のモデルとして、新たに提案されたテンダフォーマットの一般的構成法(文書IOC/IODE VIL/I3C)や、実験的記録保管、昭会システムとして各種目に適用できるフォーマット(文書IOC/IODE VIL/I3)を使用すること。
- (c) 上述の(b)で示した新データ・フォーマット方式を用いて、「国間文は多国間ペースで、御器による波浪データの 交換を始めること。
- (d) その有効性、有益さをテストする目的で、国際海洋地質データ・フォーマット(文書 IOC/IODE WI/8)を標準国際交換フォーマットとして使用すること。

を催促し、

事務局長が加盟国の要求に応じて、必要とする上述の各種フォーマット用紙類 を供給するよう要求し、

訓練教育相互援助の作業委員会(TEMA)が、開発途上間の国立海洋資料センター設立又はその発展における各国の特殊な必要事項をも考慮に入れて、コンサレタント・サービス、専門家交換の増進、必要な設備の供与を含むすべての必要援助を与えるための適切な手段をとること

を要求する。

(3) 日米天然会議 (UJNR) 海底資源工学 調整委員会 (MRECC)

第4回日米合同会議

議事概要

米国側から海洋大気庁海洋資源部次長Martineau博士以下8名、日本側から科学技術庁科学審議官大村保氏以下10名が出席し、同委員会傘下の各専門部会の活動状況を報告すると共に、MRECCの活動の今後の方針について、海洋資源開発に伴って発生する環境破壊問題にも真剣に取組む考えで、各専門部会の共同研究テマについて活発に推進すべきこと、及びUJNRに関することを確認した。

(4) MRECC海底調查專門部会

第2回日米合同会議

田時 1973年9月14日 場所 メリーランド州ロックビル市 海洋大気庁

議事概要

日本側から「日本における海底調査活動の現 状」を報告し、米国側からは「架海鉱物資源に ついて」、「海洋側量システム計画について」、 「極東における地域沿岸調査について」、「地 球物理学的海洋データについて」の報告を行な った。

また、データ交換システムと標準化の様式を 開発する作について協議し、明年日本水路部職 員1名を米国海洋大気庁に派遣することを決め た。 原に

ζÍ,

[地

テな

弋を

驱職

央め

(1) 国際海洋探査10年計画 (IDOE) について

(本文は、政府問海洋学委員会刊行の I D O E に関するパンフレットを壊約したものである。)

政府間海洋学委員会は、1970年代の 期間中に予定された梅洋研究強化計画を後 援しているか、この計画は、国際海洋探査 10年計画という名で知られている。

数多くのIDOE活動の結果生ずることになる全世界の海洋、並びにそれと陸地、海底、大気との相互作用についてのわれわれの知識の高度の進歩は、多くの点で人類に恩恵を与えるであろう。それは、人類が海洋をもっと有効に使用すること、海洋資源を採取すること、また人類自身の行動による有害な影響から海洋環境を保護する方法を開発することを助けるであろう。言いかえれば、それは海洋環境の健全な**管理**のための科学的基礎を提供するであろう。

国際連合は I D O E 計画の促進段階にある 1 9 6 8 年に、その総会が海洋調査研究 長期拡大計画(LEPOR)の構想に賛成した とき、これらの要求の重大さを認めた。ユ 不スコの中に創設された政府間海洋学委員 会は、この計画についての責任を負うこと を求められた。

活動範囲

IDOEは、"大規模かつ広範囲な各国の海洋学的活動団体から成り、他国から科学者がその団体に参加することは、この計画の初期の設階において、積極的に要求され、目的を達成されるもっである!"

これら各国の活動は、次りような重要な 8分野にまたがらものと期待されている; 海面下の毎水の湧昇、海洋一大気の相互

作用を含む:

生物資源の調査;

沿岸生態学と海中育成(魚類養殖); 海洋環境汚染の地球的調査;

海底の形態学的図化:

大陸縁辺の組織的、地質学的シよび地球 物理学的調査:

沈澱物河川流出と岸に沿っての輸送; 環境予報に関する毎洋物理学的研究。

IODEへの参加

現在のところ、IOC加盟国フェク国のうち30ケ国がIDOE計画に参加し、その大部分にいくつかのリーダー格の国立と共同して参加しているが、リーダ格の国立IOCの後援で広範囲の国内的IDOE計画を創設した国である。10年計画の終りまでには、すべての加盟国が多数つIDOEの計画項目に一つまたはより多くのもにに参加しているだろうと関係される。なか、10年計画の期間中に収集された登れるらのなぜならば、これらの資料は無料で海洋学のための世界資料センダーを通じて提供されることになっているからである。

実 施

政府間海洋学委員会は、IDOEを実施するための種々を方法を開発しつつある。 基本的には、可委員会は、その知盟諸国がそれぞれ他国の計画に参加するの至援助することにより、調整的役制を演じている。委員会は、特殊の計画項目に関心しある科学者をよび政府代表による会議や分担研究会を計画することを手配している。それ、財政的援助は、科学者の、特に開発急上国からの参加を容易にするために提供される。当然の順序を追って、この委員会は国連環境事務局に対し、この目的のため、新して 設けられた環境基金を使用するよう助言するものと期待される。多くの場合に、諸計画は、この委員会の科学的援助をする団体の助力により発展させられた。その他の場合では、海洋環境汚染全世界的調査(GIPME)のように、この委員会がこのような調査の広範囲を計画を開発するための部会を作ることにより、直接行動をとったのであった。

訓練と教育と相互援助

10年計画の期間中は、重点項目として 毎洋科学の訓練と教育に対して実施され、 特に開発途上測からの科学者に行なわれる であろう。調査研究を行なうために必要な 施設をもたない科学者のため、調査船に乗 船して調査研究する時間を手配する努力が、 あらゆる機会をとらえてなされるであろう。

優先的に調査を必要とする分野

渔昇

低緯度と中緯度の国々の多くの西海岸沿いに、通常起とる海水の病昇は、世界の漁獲の約50%がこのような現象の起る海海のもの場合に、進常に重要である。といる。 といるのは、生常に重要である。といるのは、海岸に向う車越屋流を生じさせる。 にないたで、上ばしまか10%で狭い帯をなして、しばしまでかます。 で狭い帯をなして、しばしまか10%で狭い帯をなります。 深層から勇昇した海水の豊富を栄養を起こし、 で無ないるのたっなりかた。 で東知の色速な生長を起きる。、 ブランクトン集団の急速な生長を起きる。、 で東類は、このたっぷりした食糧原南アメリカの西海岸沖にみられる阪淵に高い魚類の濃度を解明するカギである。

生物資源と沿岸生態学

海洋生物資源の知的利用と管理のための 必要な知識は、海洋中の生命を生産し、そ れをささえる機構の各科学間の研究から、 ますます多く出てくるであろう。これらの 経過が、よりよく理解され、また海洋生物 の生物学的面とそれらの生存している化学 的、物理学的、地質学的環境との間に、現 存する関係も明らかにされることが肝要で ある。

第一の目標は、海岸における瀕界による 生態系を理解することであり、それによれ はその生態系が変化に対する反応も、二三 の手がかりとなる生物学的、海洋学的、気 象学的の変数を監視することにより、予想 されることができょう。

海洋汚染

毎洋環境の水質は、今まで人類との関係 で重要なものであった。人間の活動は、海 洋の水質に有害な影響をおよぼすことが、 次第に増大してきた。生物学的に有害な化 学製品の導入、過剰な熱の放出、海洋生物 の乱獲は、海洋に重大な衝撃を与えてきた。 優先的に実施すべき仕事は、海洋における 現在の"健康状態"の研究である。このこ とは、基準線資料として知られている汚染 物の現在の濃度測定を含んでいる。地球学 的基準線の設定に加えて、同様な資料は海 洋の混合の量的研究および海洋循環の叙述 的モデルのための入力を供給するであろう。 環境予報

5

長期的でしかも正確な環境予報は、海洋と大気の状況の把握に依存している。 ごの分野でわれわれの知識を完全にするには、海洋表面および下層大気との相互作用の研究に最も重点をおくことと、この相互作用に影響している保海の力学的過程を決定することが必要である。

大陸縁辺の研究

大陸縁辺は科学と経済の双方の理由により重要である。 豊富な鉱物と炭化水素の堆積物は、すでに大陸棚に沿って開発されつつある。 しかしながら、梁海平原に通じている斜面は、殆んど未知であり、この区域

とそ科学者が将来、その活動をより集中すべきで ある。

IDOEについての他の情報は、Secretary of IOC・Unesco・Place de Fontenoy・75700— Paris・France から得られる。

4. 觀 測 調 査

昭和49年度海洋調查計画

海上保安庁、気象庁、水産庁及び防衛庁による 海洋調査計画の主なものは、本誌末尾別表のとお りである。なお本計画は各庁とも暫定的なもので ある。

5. 業 務 案 内

(1) **IOC**刊行物・文書保管センターについて

ユネスコの政府開海洋学委員会(IOC) では、一昨年より加盟各国にIOC刊行物・ 文書保管センターを設置するととを考慮し てきた。

我が国からはユネスコ国内委員会の依頼 を受けた当海洋資料センターがその任化あたる予定である旨返答中のところ、今回 I O C 事務局長より正式な指名があった。

今後、当海洋資料センターは我が国にお

けるIOC刊行物・文書保管センターとして、国内ユーザー-に対する窓口の役割を果して行くことになった。

IOCの指定する当センター保管のIO C刊行物及び文書のリストを下記に示すが、 このほかにも従来から海洋資料センターと して接受した昭和 4 6年以降のIOC回章 及びJoint IOC/WMO回章等の大 半を保管しているので、必要の際は利用されたい。

なお、今後標記センターとして接受した 刊行物及び文書のリストを逐次本誌に掲載 して行く予定である。

記

List of publications sent to IOC Depository Centres

Language

Composite E/F

Proceedings of the symposium on tidal instrumentation and predictions of tides/Actes du symposium sur le matérial marégraphique et la prédiction des marées. Paris, May 1965, Co-edition Unesco/IAPO, 1967

Composite E/F

Proceedings of the symposium on tides/Actes du Symposium sur les marées. Organized by the IHB, Monaco, April 1967. Unesco, 1969.

Composite E/F

Morning review lectures of the second International Oceanographic Congress, Moscow, May-June 1966. Unesco, 1969.

-21-

Composite E/F Proceedings of the symposium on the oceanography and fisheries resources of the Tropical Atlantic, Actes du symposium sur l'océanographie et les resources halicutiques de l'Atlantique Tropical. Abidjan, Ivory Coast, October 1965: Review papers and contributions, Unesco, 1969.

Composite E/S Symposium on Investigations and Resources of the Caribbean Sea and Adjacent Regions (Preparatory to CICAR)/Coloquio sobre Investigaciones y recursos der Mar Caribe y Regiones Advacentes. Willemstad, Curacao, 1968. Papers on Physical and Chemical Oceanography, Marine Geology and Geophysics and Marine Biology.

Composite E/F/S/R International Oceanographic Tables/Tables océanographiques internationales Tables oceanograficas. Vol. I, second edition, revised, 1971 (Vol. II to be sent during third trimester 1973).

Composite E/F/S/R International Indian Ocean Expedition, Collected Reprints, Vol. III to VIII and Index (Vol. I and II are out of print)

E/F/S

IOC prospectus

E/S/R/F

Report of GESAMP 4th Session Informe de la cuarta Reunión. Doc. GESAMP-IV 19, November 1972.

Е

Monographs on Oceanographic Methodology:
- No. 1: Zoopiankton Sampling, Unesco 1968

- No. 2: (out of print)

- No. 3: A guide to the measurement of primary production under special conditions, Unesco 1973.

E/F/S

Exploring the Ocean/A la découverte de l'Océan/Explorando el oceano. D. Behrman, Unesco 1970, (ser. "Unesco and its Programme)

E

The biology of the Indian Ocean (International Indian Ocean Expedition Symposium, Kiel, 31 March - 6 April 1971. Zeitschel B. (ed.). Springer Verlag 1973, Ecological Studies, Vol. 3 to be sent directly from the printer later this year:

Ε

A Manual of sea water analysis. Strickland, J.D.M. and Parsons, T.R. Fish. Res. Bd. of Canada, Bull. No.125 (2nd ed., rev.), Ottawa, Ont., 1965.

List of documentation

- 1. Summary report of IOC Session of the Assembly. (1st-7th)
- 2. Summary report of IOC Executive Council meeting. (1st-2nd)

1.O.C. Technical Series

No. 1 Replaced by No.9

No. 2 Intergovernmental Oceanographic Commission: Five years of work

La Commission Oceanographique intergouvernementale: Cinq années d'activité

Comisión Oceanográfica Intergubernamental: Cinco años de actividades

- No. 3 Radiocommunication Requirements for Oceanography Besoins en radiocommunications pour l'océanographie Necesidades en materia de radiocommunicaciones para la oceanografia
- No. 4 Replaced by No. 9
- No. 5 Legal problems associated with Ocean Data Acquisition Systems (ODAS)

 Problèmes juridiques relatifs aux systèmes d'acquisition de données océaniques (SADO)

 Problemas juridicos vinculados con los sistemas de adquisicion de datos oceanicos (SADO)
- No. 6 Perspectives in oceanography, 1968 Les perspectives de l'Océanographie en 1968 Perspectivas de la oceanografia, 1968
- No. 7 Comprehensive outline of the scope of the long-term and expanded programme of oceanic exploration and research Schéma général sur la portée du Programme élargi et à long terme d'exploration et de recherche océanique Esquema general del alcance del Programa ampliado y a largo plazo de exploración e investigación océanicas
- No. 8 IGOSS (Integrated Global Ocean Station System) General plan and implementation programme for plase I IGOSS (Système mondial intégré de stations océaniques) Plan général et programme de mise en oeuvre Phase I IGOSS (Sistema Global Integrado de Estaciones Oceánicas) Plan general y programa de establecimiento Fase I
- No. 9 Manual on International Oceanographic Data Exchange (3rd ed., revised)

 Manuel sur l'échange international des données océanographiques (3ème ed.)

 Manual sobre el intercambio internacional de datos oceanográficos (3ème ed.)
- No.10 Bruun Memorial Lectures (presented at the 7th session of IOC)
 Conférences à la mémoire de M. Bruun (présentées à la 7ème
 session de la COI)
 Conferencias en memoria de Bruun (pronunciadas en la 7a
 reunión de la COI)

(2) 各層観測資料のテータ·ベースについて

前年度まで標準化処理した結果のデータは、バンチカードで保管されていたが、大型電子計算機の導入に伴い磁気テープによるデータファイルが可能になり、今回航海別磁気テープファイルと地域生磁気テープファイルの二種類のデータ・ベースを作成した。

航海別磁気テープは航海別データを必要とする利用者に対して用意され、地域別磁気テープは 1° 力形火口 3 0 方形独立地域毎のデータを必要とする利用者およびセンタ

一における統計処理に対して保管されるものである。なお地域別談気テープは米国の海洋資料センターから送付された、太平洋全域における外国の資料約7万側点の地域別磁気テープと併せてファイルした。これらデータベースのファイル作業は、毎年1~2回実施され、常に新しいデータがuptodateに維持される予定である。

48年10月31日現在、地域別磁気テープにファイルされてハるデータの中、日本近毎における1º方形毎の各層観測の測点数を0mと500m層について、Fig. 1, Fig. 2 それぞれに示した。

				7	٥	>																						300	•
63 60 30	112	11	97	106	34	116	93	170	153	71	62	30	67	24	77	69	52	51							30				150
54 47 12	83 1 79 1 35	+-	38	97 1		_			134				52	33.4	55	946	3 4	36	22	30	20	15	10	4 6	11	<u>ا</u> ع	ev a	4	
83 38 38	101 93 46	 	52	116	27	104	%	158	144 98 :	15	72	35	47		20	41	. 7 <u>7</u> k	29	17	77	10	12	v,	L	n m	- 1	9	۰	
31.	129 1 117 60 -			1	36	1		1	193	Τ.				0 °	69	59	<u>.</u> [29	14	24	10	9	7	- 0	עיז ע	F-1	13	α -1	
2 3 %			Ì			1		÷ -	228	,				6,0	95	79	£	64	33	66 E	23	24	17	01	19	6	28	19	
227	574		431	+ -	149	313	278	334	307	251	232	101	155	146	188	178	926	117	75	 00 1	36	31	56	13	145	93	29	25	
<u> </u>		-	479	+ ·	432	97	ص ر ص ر	2 5	72	, a	90	9/	90	. 60.	7.7.	141	47	2 6	67	45 65	20	89	40	17	2 2 3	pω	30	33	
l		1	201 2 452 4 165 1	-	548 4 117 1	1901	831 3	789	718 3	276/	354 .	121	147	140	788	264	. 78 T	153	87		8 6	T:17	79	21	39	17	47	12	
203 4 4	- 6 6 F	ˈ		15-		.L	84		~~ 21 L				1		i		- L		-	4			_	- 1			·		: ы
245 230 290 14	!୍ଲ (୧୯				۰ م	-		┥`	7	_			467	424	ر مارو المارو	25.5	<u>-</u>	655 546	130	258	228	1 0	187	99	95	32	77	56 ' 15	
	4 5	A		- }	13	2 2	63	1,2	186	9,	<u>ع</u>	;	 		- 1	\sim	٠,					_ i						58	140
9 20 8 19 7	52 54 50 51							t	343 1	- 1-	\leftarrow		ļ I		_ ⊢_		_	\Rightarrow	-	╄	_				_	_	+	144 56	ł
				_		1		ļ		-		. 1	/e	4	- ;		.=	. }		ł		+	-				1—	143	1
	4		32 32 7			1			5 171 5	- 1		\-	\leftarrow				9		/7	1		1			!			131 1	1
3 10	5 18		3 30	:		ł		_	96 - 95 - 95		_				_	*		56 24		7 -	<u>}</u>				Τ.			222	1
			14 23 14 23	1.					131 99 128 96						42 27						848	+			+		- 1	176 2	1
<u> </u>	1 5 0	-		·		-		_ !		:					. !	1	-	,	} ∖	+	-{	ļ				—-	- ;-	_	┨
		۲.	22		23		-	1	5 - 43	1	_	-	+ -			٠,		i	*	\prec		-	5					103	1
2-0	₹52 123 123 124 125 125 125 125 125 125 125 125 125 125	<u>-</u> -	105		40	- [4 . 25	.			!		0 22			\prec		2	· ·		58 7 28		3 26	25 25	25 - 1 - 25	190	
 	186°	10	286	ļ	 	.		. +	54		į.	₽.			1				ſ	1)	[] - -	<u>∽</u>		4	€. •		2 3 4 2 3 4 2 3 4	
<u> </u>	30	ھ	565	_	36	7 5	128		35		+	683	6 6	3 35 20 55	[6]	277		1109		+	7	₹ •	Ž	5	ئۆر د	~~\d	_	2 4 4	-
tion		l	150 116	- }	22	_	2 207		2 360	8 28	12	910		ν 1 ν 2 υ	. 8	92	_ 1		3	-		187	5 1537		5 276			5 1/3 4 168	1
Distribution	er	Stas.				1	662	۔	3,62	<u> </u>	221	207	7		 	- 63	 53 4	3		\$ 11.2 		3 107			263	_	ļ	$\frac{3}{3}$ 115	
	m Layer	of St	⊢ v> <	2				2 \$	_		1		e ¹ 5.	-				24	5	201	_	133		. 80				8. 93 1. 93	4
Square		oN.				-					}	رمير —	2	7		1	<u> </u>		` 			<u> </u>	ļ	3 70	50 20	<u>'</u> _	!	4.108	
10.5							2	/	<u> </u>		Ş	320	- 53 	361	344	700	379	468	450	107	160	135	 €	.9	4	127	1	84 70	7

-24-

Fig. 2

		r			ľ	L	ŀ			ļ		ļ	L			ľ	ŀ	l	I
Square Distribution		!			1	 	- 13	- 8 - E	28	22	\			-	5 m 5 m	<u>4</u>	51	27	43
Layer	!	60	کم	- 1				× -		$\stackrel{\sim}{-}$	} .			}	Ŋ	αc.	25	oc	α:
	_{	- ارک	<u>}</u>	l	71 i 00 i	17		1 37	. t .	7	6 I	∞ (- 2/	199	98	71	- 12	43	20
	کم ا	13		9	- 7 - 7	2 Te	07 0	9 1	æ, ∻ 		\int_{∞}	/	2.2	157	 59.	45	2 9	31	35
L.	, , ,	' F		ı						<u>~</u>	7		7	· You	10.7		: 09	ç	16
	7 F	٠ ۲ ۲						7 10		<u> </u>	} & }		N 00	τ · α		103	5 G	, t	3 5
	00	10	12 1	10 1		17.1			- e-	ς, Έ	3	127	116	141	122) F^	45	3.1	5 %
7	. 87					-		<i>C</i> 9		<u>)</u>	 ₹	С 00	163	162	6]	. 04	. 07	26	54
, w	in	14		3 2 2 1	1 16	. 20	2,1			 معري.		fr.	160	82.5	99	97	7	: : [:-	20
	r/	īΩ				i						1) (10)	:108	120	36	27	2.2	1.0	25
06 6	11	ΔŦ	ļ.					C.	35) —		0,2	977	10.5	7.8	- 25	33	40	6.3
71 5	P	9			CC CC					<u></u> .			10 21 1	17.7 17.7 17.7	 	50	c c	34	-
Γ. Ε.	αC	rs.	α: 		ί., σ	70.	4 ž	o.	e e		,	015 /	Ö'	ij	S C	ری	ر:	37	÷
22 : 23	87	23			635	15		60.	mî G		٠ .	000	υς ()	191	100	701	G.	96	104
€ b	117	22	_		ja 	÷.			· · ·		1	106.	i,	α. χ	ئ ا⊃ت	201	1 5 30	Ú	JU1
) 	E.	ų			i.	<i>у</i> .					ζ.	545	080	146		5	X r	7 >-	9
ş	â	اد		c					, ,	• ~			s.	136	ı.t. U	0	i,c	ž	, . V
-	у	9 9		· 3	. 3	- 174	7				\ \^ 		Ca	100	· L		: 1/	· m	1 2
	17	α	14 1	, 0	6	· · · ·	ركيا	1		•	77	e e	ρ. Γ.	c c	ž	ڊ. ۳	۱,	(<u>f</u>	, ru
سد.	α, <u>L</u>	.1					5	١			ن. ن کا ت	Ċ.	62	χ ()	r.		1, 3 (*)	. */) &	2
<u>. ۲</u>	53	79				,	·	,			5	56	19	-0	Ľ.	رم در	λ',	į.	် င
_ _	5 45	4.5	1	. 00	S	\.					نه	2	÷	r. F	43	t C	, ž,	or C	ć
~	<u></u>	٠ ٢١	, ,			إسدسي		','	24.5	7,0	17%		ŝ,		2.77	'n.	C.	20°	ı
		(0)	7		\$	Ç		' J	1.3	ر ح	100		¢.	701		3,6	Ć.		-7
`\{	·~·	<i>;</i> -	L.				٠,	~	<u> </u>)	a, n,		4.4	÷	ۍ د	2	2	ŗ	<u>.</u>
72	,	. `\			ا، :	r.	Į.	Ž	المح المحادث	٠.			α.	5	714	Ċ,	۲,	. 1.	C.7
C.	,	/	?	3		F.2		, SU,	300	_			ţ.	α L	43	5.0	5	r -	1
٠	eri eri		5	y \	, Ž	£	ة 7	907 10	C3				42	ę,	58	11.	en en	+	E3
			, l		بخ م								35	L 7	5		3.6	C.1	:5
`	١	\bigcap_{i}	`	7		7							35	46	ζ. L.	14	13	24	S.
4	4	~~		•			1						3.6	32	22	S	6.	0	7.
· ·	2	4	٢							_	67		30	:33	in	ε.		φ	ς Γ.,
	~	<u>*</u>		_									56	22	13	~	Ŋ	ï	33
	∠:	4	į.			122	+				- !	1	11	13	10		1	9	17
53 75	- E												20	101	17	m	_	œ.	29
	~						-						α.:	96	14	(С)	_	oc: i	25
79 - 05	₹ ? ?	-					:	-					oc o	& ;	را د ا	-		m !.	16
	07.												DC P	14		4 、	ın L	רי	67
35 - 50	~ ~	22	1/8 100 81 41	1 27	5, 195 7, 122		123	1.57	. 12	75	- - -		77	4 r.	 C	 3 -	n	0.4	17
4		_											,						

9

1 8

1400

(3) 海洋調査報告 (ROSCOP) の受領状況について

10℃(政府間海洋学委員会)の定めるROSCOPフェームによる海洋調査報告の昭和48年8月1日から昭和49年1月31日までの受領決況は下記のとおりです。

		钪	梅	数	報報	中され	たが	- 多別の	克海数	ζ
機	哭	= \$\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	DNP	NOn - DNP	叙述的 海洋観 组	海流 観測	気象 観測	地質·地 球·物理	生物	その他 の 観 測
国 内										
海上保安庁	なり	3	1 0		12	10	7	2		1
気 象 寸	本 庁	1	I	1	2	2	2		2	
	函館海洋気象台	1	3	<u> </u> 	4	4	4		4	I
!	抽一	1	5		6	5	6	1	4	
	舞鶴	ı	2	! 	3	3	3		3	
	長崎 "]	1		2	2	2		2	
水 産 庁	與比水產研究所	,			5	5			5	
	東海区 "		4		4	4	1		3	
国上地理院			3		; 			3		
函館水產試驗場			9		y					
秋田水産試験場			1.5		1.5		1.5		3	9
北海道大学		1			1					
小	ri t	1.4	5 3	1	6.3	3 5	4 ()	6	26	11
国外		•				•				
韓 国		2			2	2				
食	; ;;†	1 6	5 3		65	3 7	4 0	6	26	1 1

(4) 海洋の地質及び地球物理テータの包含範囲の目録について

このことについては、すでにJODCニュースML3号で紹介し、また関係各機関に対しては協力をお願い(昭和46年12月2日付保水資第67号)してきたところですが、今後この分野での情報・データの国際的及び国内的交換が活発化する動向にありますので、海洋の地質・地球物理関係の調査航海を実施した機関はすみやかに所定の用紙(すでに配告済みですが、不足している場合は請求して下さい。)に記人「うえ提出して下さい。)に記人「うえ提出して下さい。

なお、現在までの所定用紙を用いての記 人務目録の受領状況は下表のとおりです。

袋	関	件 数
1970年6月以	前のデータ	 :
(for Pre-19	70 da ta)	
海上保安「	Ť	8
気象庁(気象大学)	交)	1
4	÷6. ⊒	9
1970年以後の	データ	
(for Post-1970	data)	
海上保安」	宁	1 2
気象庁(気象大学	交)	2
地質調査	沂	3
更原大学地襲开究/	折	1
45	āf	1 8
台	i h	2 7



(5) 受領刊行物

昭和48年7月から昭和48年12月までに受領した主要刊行物は下記のとおりである。 (国内)

出 所	#	誌	ži H	Ðſ		計	名
每上保安厅	フィリピン諸島	水路誌第1	善 海上保安	rj l	遠州灘冲	每象觀測者	告書
	"	第 3	<u> </u>		機根岬勺。	丘潮流調査	報告書
	燈台表第1卷	=			音響探層	幾こよる値	讃瀬戸
	昭和49年	天測曆			2.海底地1	西調查報告	i
	ii ii	天凘略香	第一管区	海上保安	流氷によ.	る海難、品	3利3 0
	"	天体位置表	本部		年~昭和	4 8 年調査	統計)
	! "	潮汐表第1	巻		海洋速報	(48年第	到10号)
	"	# 第 2	巻 第二章区	d.	東北海域	毎洋速報(487)
	水路 要報第9	2, 93, 94	5 2.		海洋概報	(48年第	(2号)
	海洋速報第1		1		海洋速報	(48.11)
	毎洋既報48		ı		塩釜港の	潮流	
		別(昭和4	1		小名英港	の潮流観測	則報告
	1	5よび10月			下北半島	合提(東岸	()海潮
	月分)				流観測報	告	
	海上保安統訂	十年報第23	巻 萬四章図	9	伊勢湾西	部潮流觀	則報告
		度研究或果報	1		周日市港	北部潮流	觀測報告
		~ 或に投入され	1		名古屋港	内港の朝	流観測 器
18		つ ゆくえについ	T.		19		
	,	- 毎期流調査計			尾鷲港よ	よびその	付近の潮
į	相模齊海潮				流観測報	告書	
		朝流觀測成業	Į		伊勢齊北	(部(名古	屋港南部
		象観測報告(の潮流		
		部水島港付近	· · · · · · ·		伊勢湾阜	部の潮流	観測報告
	製測報告書		<u> </u>		書		
	1	崎付近潮流亂	! 見測[軸]		本州南岸	伊勢湾の	潮流
	告	-, 1 , 22 11 30 11 13	 第五管	ヹ "	姫路港書	悪 沖潮流	観測報告
		潮流観測報』			和歌曲	* 津港有田	区潮流黄
	1	よび航路の調			測報告		
	1	の潮流につい			仮南港灣	期流観測報	告
		び駿河湾海り			姫路港南	開流観測對	₹ <u>/</u> ‡_
	測報告書	V 48% 2 2 2 2 1995	,,,,,,,		剔守巷:	いよびそこ	付近 20準
		間沖海象観	斯提告		流		
		潮流観測報			紀伊水記	直橘浦付近	の潮流
	選手舞の流	= 47 () () () () () () () () () (:		高知港		

<u> </u>	所	書	誌	————— 名	::::		書	É	名
<u> </u>	····				第七管区海			大分川河口	
部		流)	- 3 (-		本部		流観測報		
		い. 早瀬瀬戸の	潮流		H-			· 奇勺折潮流	翻測報
		宇野港内の					告	-, 7221.50	
		四坂島の朝						福江島南方) 海瀬
		土庄港内の					流觀測報		7 179 1971
		新居浜港口						'' の潮流(砂	津沖以
				近の麒流			東)	CARDIDIC (BA	1411-20
		資料	0, 12	24 113012	 第八管区	"		(48年第	3 37
		 本州四国連	終观極調	杏樹赤匐	7107 (17 ==		1	近の海潮流	
' I			: 4(1) // (18) W-	I EL TOIL EAL				近海潮流額	
		岩国港の潮	l i řř				境港の潮		
		仙島水道の		いて				た 海潮流(第	2.750
		来島水道の					l	子:// 学調査技術	
		有津・荒神					議事録 /	- GOLLIXI	2000
		測報告	71 71 10	. Thoreag				朝流 共同額	1相 谷料
		松山港高浜	は比部の適	(序(路報)	 第九管区	y		1区の流水	
		- 光港付近の		200 - 4 120			7		
		徳山港出光		-ス付近の	第十管区	"	鹿児島港	付近潮流図]
		潮流						部潮流観測	
		伊予桜井沖	の朝流					の潮流でこ	
		 芦田川河口	海域の潮	流	•		鹿児島港	南部の潮流	ć
		 伊予攤北部	の潮流				鹿児島港	北部潮流区]
		今浜港の潮	流				長鳥海峡	潮流図	
		 伊予 難 北西	部の潮流	Ĺ			長島海峡	ブイ追跡省	[#]
		昭和47年の	広島港に	おける潮			昭和46:	年長島海峡	※潮流 予
		 汐予報の実	側比較に	ついて			報表		
第七管区	"	関門港田野	浦区大久	、保沖潮流			奄美大島	海峡潮流電	測報店
		觀測報告					髄海峡の	潮流につい	って
		長崎県三重	沖潮流観	測報告	第十一管区	"	那覇港朝	流観測報告	i i
		一壱胺水道⊄	潮流		気 象 庁		全国海况	旬製紙 96	0~ Na
		佐世保港の	潮流				978		
		! 関門海峡砂	/津航路包	近の潮流			気象庁月	報47年1	1月~
		福岡湾の潮	用 츘				48年5	月	
		関門海峡戸	畑冲心溝	Biti			測候時報	第 40 巻第	4号~第
i		五島難(富	江冲)梅	潮流觀測			8 号		
		報告					全国検潮	速報 1973 年	₹4月~
l		関門海峡西	百付近@	潮流			9月		
		製門海峡早	- 鞆瀬 戸石	近の潮流			気象庁海	洋汚染観測	速報第
		関門海峡弟	8子待付近	この朝流	1		4 号		
		ĺ							

Ą

B)

吉朗

甎

出 所	書 誌 名	出 所	書誌名
気 象 庁	WMO 每半気候概要 %3. %7.	西海区水産研究	两海区水研報告第42号
	北太平洋海洋気候表 1961年~	斯	漁場月報 16.1 6~16.2 1
	1965 年		対馬暖流系アジ・サバ・イ
気象庁気象研究所	気象研究所研究報告第23巻第		ワシ漁海況長期予報
	4号、第24卷第 1号、第 2号		第19回西海区水研プロッ
旬台管区気象台	仙台管区異常気象報告第38元		ク漁海況連絡会議議事録(抄)
函館海洋気象台	海洋速報第10巻第4号、第	日本海区 "	日本海区漁場海況速報
	1 1 卷 2 号、3 号		N6268~N6273
	函館海洋気象台要報第17号	,	日本海スルメイカ漁海況予
神戸 〃	海兰速報系64~1666		報(7~9)
舞鶴 "	旬平均海面水温水75~1693		昭和48年度第1回日本海
	海洋速報.版256~16261およ		スルメイカ長期漁海況予報
	び%256. %259 の別冊		昭和48年度漁況海況予報
	海上気象短報 16229~16235		事業調査指針(日本海ブロ
長崎 ″	西日本海況 旬報 % 916~% 933		ック関係)
	海洋速報第 6 9. 7 0.	遠洋 "	遠洋水産研究所ニュース%
水 産 庁	昭和48年度開洋丸第1次記	5	15
	查航海調查要綱		国際的な場におけるマグロ
	昭和 4 7 年度調査船照洋丸軸	ž	漁業管理の探究(昭和4-6
	告書西部赤道太平洋		年~47年)
北海道区水産研	15 北水研ニュース 168		母船式さけ・ます漁場にお
新	研究報告第3.9号		ける海洋観測資料昭和37
東北区 ″	東北海区漁場海沢概報		年~47年 研究報告8
	1973年 4 月~9月	北海道立釧路	
	北上期サンマ調査	水産試験場	漁海況速報第7号~第19号
	暖水塊及び北上期サンマ調査	Ÿ.	かよび サンマ特集
	わかたか丸BTカード	" 函館 "	海洋観測表太子洋(ホ6)48
東海区 "	放射性固体廃棄物の海洋処象	}	6
	に伴う海産生物等に関するB	3	" 日本海(ホ7)
	和 4 7 年度予備調査報告書		47.5~9および 48.6~9
南西海区 ″	南西海区水産研究所二。—	く / 網走 /	漁海況速報第1号~第4号
	第 9 号	秋田県水産試験	海洋観測表(ニー10線)
	南西海区水産研究所研究報管	5 場	7月~10月
	書簿 6 号		" (沖合 u 線) 7月
	南西海区水産研究所年次報行	· 茨城 "	海况速報 48 - %13~%37
	No. 6		海況速報総集編(47年度)
	土生 (大正礁)海底地形	4	月報 48-3号~9号
	南西海区漁場毎況戦報	東京都 "	昭和46年度漁泥海况予報
	1973年1661~1666		事業報告書
西海区 2	西海区水研 ニュース版4		廃油等による伊豆諸島近海

Γ.									
出	-	書	盐	<u>名</u>	租	<u>所</u>	-11°	社	名
東京都水	產試験場		事さその防災	余対策に	沖繩県	水產試験	沿岸足	線調查報	皇 18年1号~
		関する資料	4		場		5→}		
// (大	:島分場)	漁海泥東	最為12√%	3.8			准合定	線調査報信	与47年1号
		定置観測。	長 4 8年6~1	11月			~744		
		漁海沉資料	料(水温速)	骰) 6月				#	48年1号
		~1 2 月					~ 2))		
		調查報告	48年2月,	、3月	熊本県	" I	Reduced	Data Car	rd 天草灘
# (⊼	(丈分場)	定置観測	表 4 8年6月-	~1.1}]			48年	5 月~1) Ӈ
神奈川県	水產試験	相模療法	り漁海沢調	企表 (昭	長崎県	0	毎洋観	- 	~ 1 1 月
場		程4-7年)	烂)				漁業月	報派15~1	% 1 9
		Reduced	Data Caro	i	生賀県	q	海洋視	制表	
		東京商・村	目聴誇 197	2年7日~			渔舟足	月報. 坂1.5	1618
		1973年7	月		12日県	(外海)R	educed I	Data Caro	i hatka
愛知県	#	漁海況情報	· 16.5~16.9				1	5月、6月	
		調査報告	6月~9月		鳥取県	"	布注観	和表 7月~	~ I 0 月
三重県(近	(島) #	昭和464	+发三重県	兵島水産	灰哲特		海洋観	測表(小順	語語沿岸定
		試験場年	3					月~7月	
		昭和 4 6 年	F 皮魚沢海(見予報事			海洋觀	<u></u> 野表三神/	îR線)
		業結果報告	<u> </u>				7月、	1 0 月	
』(伊勢	势湾 / "	海洋観測表	長7月~1:	2 片			スルメ	イカ漁業	一番調査
和歌山県	η	昭和46年	[度和歌]]]原	県水産試			6月、	7 月	
	İ	験場事業	K		石厂県	,	昭和 4	6 年度水道	試験場事
}		昭和4-6年	F度漁児每	1. 予報事			業報告.	井	
		業結果服务	告書			;	超和 4	7 年度日本	海拔培漁
		地先定線調	間查報告 書籍	商3 次~			業漁場	資源生態 調] 查報告書
		8 次					超和 4	7 年度指定	調査研究
		冲台定線。	· 看報告書》	61火~			総合助	设存装渔 案	(技術研究
i		4 次					報告書	-小型漁船	漁業の総
徳島県	"	徳島沿岸の	海尻と漁5	元 7 月 ~			合的省;	力化研究	
		1 2 月					昭利(7年度漁洲	上海况于淮
高知県	7	海洋観測表	そく沿岸定義	泉)			事業結!	表報告書	
	i	"	(沖合定線	泉)			沿岸重9	要資源調查	報告書
宮崎県	<i>y</i>	昭和47 年	· 度航空観測				海洋観	恵妻 7 月~	- 1 2 月
		調查報告			富山県	#	海洋観測	則表〔 1 7	線)7月~
		沖合定線調	查報告第 2	2号~ 5 │			12月		
		<u> </u>			折利県	"	岩和 4	6 年度新蕉	県水産試
		日向難海沙	L.魚泥既要簿	9.4 号~			験場年		
		8号					新 制集 2	 	开党報告
鹿児島県	"	海洋観測表	· 6月、7	,月			第2号		
沖繩県	7] 查報告 4.7:				漁海况。	車報第16 ★	∳~第 2 1·号
		9号							•

- 3 1

1 (沙沙)

海報報口 龙

7

6 お 7

п

9号) 48.

·号)

)7月 17 度)

予報

丘海

出 所	書誌名	出所	書誌名
運輸省大臣官房		国立極地研究所	南極資料第10号~第44号
连制 自八正百四	号		および 4.7号
#第一港湾建設局	・ 小松飛行場誘導路、エブロン	国土地理院	National Atlas of Japan
, M, MET 7.00 E.C. 7	改良工事設計計算書		19枚,1/2.5万沿岸海域地
"第二 "	東京湾潮流調査報告書付録測	ļ,	18図および沿岸海域土地条件
71 7 —	定資料及び計算書		凶 9 枚
* 第三 *	管内観	地質調査所	COOP Project Data
,,, <u> </u>	潮位、風向、風速、波浪各觀		Sheet supplementary In-
			formation
// 第四 //	関門周辺の潮流	工業技術院中国	中工試ニュース 16.4
3,23.2	┃ 波浪観測台帳第1集~第9集┃	工業技術試験所	中国工業技術。創刊号
 防 衛 庁	第13次、第14次(資料編	北海道大学	毎洋調査漁業試験要報第16
	を含む)南極地域観測協力実		号
	施報告書	東京大学	Preliminary Report of
	海上自衛隊海洋観測年報(47		the Hakuhō maru Cruise
	年版)		KH -7 1 -3
	表面水温分布図48年1月~12月	見 東京水産大学	東京水産大学研究報告Vol
 科学技術庁	北方亜寒帯海域に関する総合		59 <i>N</i> 6.1 , <i>N</i> 6.2
:	研究報告書		海鷹丸第 37・39 次航海調
国立防災科学技術 +	防災科学技術/62~/622		查報告書(黒潮共同調查·
ンター	防災科学技術総合研究報告第		南支那海)
	1号~第31号		東京水産大学逐次刊行物誌
	国立防災科学技術センター研		名目録1972年版
	完報告第 1 号~第 7 号	東京教育大学	沿岸観測報告.%1~%22
1	国立防災科学技術センター73	東海大学	海洋観測表
	要覧	三重県立大学	練習鉛大勢丸調查報告
環境庁	昭和 4 7年度公共用水域水質	京都大学	京都大学防災研究所要覧
	測定結果について		1 9 7 2
	昭和 4 7 年度公共用水域測定	高知大学	宇佐臨海実験所研究報告
	結果有害物質のワースト3及		Vol. 19 16.1 -2
	びその原因と対策	広島大学	広島大学水畜産学部紀要第
	むつ湾水質環境調査報告		1 2 巻第 1 号
	その1.その2(データ編)	長崎大学	長奇大学水產学部研究報告
	広域水質汚濁総合調査におけ		第35号
	る水質等試験方法(その1)	日本海洋学会	日本海洋学会誌 Vol. 29
	昭和 4 7 年度瀬戸内海水質汚		M6.3 4
	獨総合調査データ表(その I		昭和48年度日本海洋学会
	瀬戸内海水質汚濁総合調査(秋季大会講演要旨集
	昭和48年度分)データ表("沿岸海洋研究	日 沿岸海洋研究ノート第11
	その2) 底質調査方法	部会	巻第1号

	1	T	1
出所	書	出 所	書誌名
日仏海洋学会	うみ第10巻第4号、第11		The Scientific Reports
	巻第1号〜第3号		of the Whales Research
海洋気象学会	海と空第49巻第1~2号		Institute
	合併号	日本海洋開発産	JOIAニュ スVol.1
水產海洋研究会	水產海洋研究会報第23号	業協会	No.1~No.3
	Advance in Fisheries	ワールドオーシヤン	WOS News 1611~1616
	O ceanography	システム化。K	
日本水路協会	水路第6~第8	産業公害防止協	産業公専総合事前調査に伴
日本測量協会	倒量 8月~12月	会	う海沢調査報告
日本船舶振興会	技術文献集報 Vol8 1/61~		苦小牧、室蘭、函館、秋田
	8		灣、酒田北港、新潟東港
日本機械工業連	海洋開発関係資料目録 4 8 -		鹿島、君津、衣浦、中室勢、
合会	3~8		下津和歌山、坂出、丸亀、
	昭和43年度海洋機器開発に		長浜、岡山、東播響、宇部
	関する企業実態調査報告書		小野丑、志布志
	日機連・海洋資料インデック		伊勢湾全域の水質汚濁防止
	ス第1集		等の総合計画調査報告書
日本舶用機器開発	海洋機器開発 Vol. 5 1/26~12		その1~そり4
協会			伊勢湾における汚濁物質の
漁業情報サービスセ	漁海況速報第67~第101号		循環機構に関する研究報告
ンター			<u> </u>
海洋科学技術セン	なつしま派3、派4		伊勢濟総合調査研究報告書
<i>3</i> —	欧米海洋開発技術調査報告		瀬戸内海海象調査報告書
	海中作業基地による海中支験	オーシャンエーヂ	O cean Age 1973年8月~
	研究	社	12月
海洋水產資源開発	JAMARC 第3号、第4号	海洋出版株式会	海洋科学 1973年1月~12月
センター		社	
海中公園センター	海中公園情報 28.29	工業事時通信社	工業事時通信第416号~ 第
日本海難防止協会	昭和47年度カラュリー等の		465号
	安全対策に関する調査研究完	海洋產業研究会	海洋產業研究資料 Vol.4
	了報告書		N_0 8 \sim 9
	昭和47年度海難防止の訪船	三菱重工業株式	三菱重工 1629. 1630
	指導事業報告書(小型船・漁	会社	
	船)	陸奥の開発社	陸奥の開発 7月~1 2月
	昭和47年変海上交通法規(こ	理化学研究所	東京湾・相模湾東部水温、
	関する調査研究中間報告書		塩分統計表(暫定値)
	昭和47年度漁船等の着氷海		
	難防止対策に関する研究形子		
	報告書		
鯨類研究所	鯨研通信第263号~第268号		
	<u> </u>		

告

会

. 1

(田 外)

Australia

Commonwealth Scientific and Industrial Research Organization (CSIRO)

Australian Journal of Marine and Freshwater Research Vol.24, No.2

Australian Goeanographic Data Center

* Australian Oceanographic Data Center Bulletin No.9

Brazil

Diretoria de l'idrografia Navegação * A:IÀNTICO SUL, ATLÁS OCEANGRÁFICO Costa Leste do Srasil Condições na Primavera de 1971

* Frasil - Costa Norte
Da I. De MARACA Ao RIO PARNALBA
Carta de Pesca No.23200

Canada

Fisheries Research Board of Canada *Journal of the Fisheries Research of Canada Vol.30, No.6 - No.12

* Fisheries Research Board of Canada 1898 to 1973

Colombia

Nacional de Dirección General Maritima y Portuaria

* Colombian System of Marine Investigation

* Colombian Programme for the International Decade of Oceanic Exploration

Dermark

International Council for the Exploration of the Sea (ICES) $\,$

- # ICES OCEANOGRAPHIC DATA LISTS AND INVENTORIES No.8 Inventory of Oceanographic Investigations at North Atlantic Ocean Weather Stations in 1971 No.10 in 1965 and 1966
- * Monthly Charts of Temmerature and Salinity in the North Sea Jan. Mar. 1972
- * Monthly Means of Surface Temperature and Salinity for Areas of the North Sea and the North-Eastern North Atlantic in 1957 - 1967 Institut for Fysisk Oceanografi, Kobenhavns Universitet
- * Inherent and Apparent Optical Properties of the Western Mediterranean and Hardangerfjord
- * Water Level and Current Spectra from the Great helt 1970 Report No.22

Ecuador

Instituto Oceanografico de la Armada ** Atlas Oceanographic Vol. 1

France

Centre National Pour 1 Exploitation des Océans * Smiletin d Information

- Fulletin CNEXO No.52 - 56

* Rapport Annueel 1972

Germany (Federal Republic)

Instituts für Meereskunde an der Universität Kiel

* Ecological Studies 3
The Biology of the Indian Ocean

Germany (Democratic Republic)

Akademie der Wissenschaften der DDR

* BELTRAGE ZUR MERRESKUNDE HEFT 32

Indonesia

Institute of Marine Research, National Institute of Oceanology

* Oceanographical Cruise Report No.8 - No.11 * Penelitian Laut di Indonesia, Marine Research

* Penelitian Laut di Indonesia, Marine Research in Indonesia No.13

India

Council of Scientific and Industrial Research * "Mahasagar" Vol.5 No.4, Vol.6 No.1

Korea

Eydrographic Office * Technical Reports 1972

Fisheries Research & Development Agency

* Bulletin of Fisheries Research Agency No.10 * Annual Report of Oceanographic Observations Vol.21 1972

Mexico

Instituto Nacional de Pesca

* Informe Cientifico No.2

* Sinopsis Sobre la Biologia de la Totoaba

?eru

Institute del Mal del Peru
* IDMDP BOLETIN Vol.2, No.9
Third Session of the Panel of Experts on the

Third Session of the Panel of Experts on the Population Dynamics of Peruvian Anchovy

Soviet Union

World Data Center Bl

* Catalogue of publications received by WDC B1 between July and December 1972 Meteorology, Nuclear Radiation, Glaciology, Oceanography, Longitudes and Latitudes, Seismology, Gravimetry, Geodesy, Upper Mantle Geodesy, Volcanology.

* Catalogue of Data on Rockets and Satellites for the period Jan.1 - Dec.31,1972

* Catalogue of Data on Latitudes and Longitudes for period Jan.1 - Dec.31,1972

* Catalogue of Data on Meteorology and Nuclear Radiation for the period Jul. I - Dec. 31

* Catalogue of Data and Publications on Arctic and Antarctic

Academy of Sciences of the U.S.S.R.

* Volcanism and Magma Genesis in the Earth's Mantle Sibliography 1956 - 1970

* Geomagnetic and ionospheric disturbances in the high latitudes

* Theory of the low-frequency electromagnetic fields in the surroundings with thin anisotropic layers and its geophysical applications * St by * Ge * Po ma

* Cy

* Str * In the * Tee

Ea

th

* Oce

United World

NOAA N

* Tes

* Ins

* Tec

NOAA N

* Fis Sea *Coll * Eas

* Fis

NOAA E
* NOA
Mar
an
* env

* HIGH 196* * Inte

* Inte Prog NOAA Na * DENS Nort

Fift
* SURE
Paci
Paci
U.S.Coa

* Ocea Ocea Ocea * Ocea Ligh

serv
* Tech
Taut
Coas:

19.72 * Ocean Coast * Ocean

Coast
Defense 1
* Pilot

No.16 * Pilot No.55

- * Statisfical offinity of the signals reflected by ionosphere
- * Geomagnetic Publications
- * Polar radiances and the processes in the magnitoshere of the earth
- * Cyclicness and prognosis of solar activity * Studies on the propagation of short radio waves
- * Interplanetary environment and physics of the magnitosphere
- # Tectonic Map of the Pacific Segment of the Earth (with addition of sedimentary caver on the ocean floor) Scale 1:10,000,000

United States

- World Data Center
- * Oceanographic Data Exchange 1972
- NOAA Narional Gues.og.raphic Instrumentation Center * Test in Progress Suget FIES-0029
- * Instrument Fact Sheet :FS-73009 74002 * -echnical :ullcrin RN-1609
- NOAA National Marine Fisheries Service
- * Fishing Information No.5 10
- * Fishing information supplement
- Sea Surface Temperature°F
- *Collected Reprints
- * Eastropac Atlas Circular 330 Vol.7
- NOAA Environmental Data Service
- * NOAA Technical Hemorandum EDS NOBE -3 Marine Science Newsletters-19/3
- an Annotated Fibliography * environmental data service heb. - Sep.1973
- * HIGHLIGHTS Vational Oceanographic Data Center 1961 - 1970
- * International Decade of Ocean Exploration Second Report Oct.1973
- * International Decade of Ogoan Exploration Progress Report Vol.2 Jul. 1972 to Apr. 1973 NOAA National Ocean Survey
- * DENSITY OF WATER at Tide Station Pacific Coast North and South America and Pacific Islands Fifth Edition
- * SURFACE WATER TEMPERATURE AND SALIMITY Pacific Coast North and South America and Pacific Ocean Islands
- U.S.Coast Guard

copic

- * Oceanographic Report No.00373-5% Oceanographic Observations North Atlantic
- Ocean Station DELTA Aug.1967 Aug.1968 * Oceanographic Report No. CG375-59
- Light Vessel/Light Station Oceanographic Observetions East Coast of United States 1971
- * Technical Report 72-1 Taut-Line instrumented arrays used (the by) Coast Guard Oceanographic Unit during 1970-
- * Oceanographic Unit Technical Report 73-1 Coast Guard STD Calibration Procedures
- * Oceanographic Unit Technical Report 73-2 Coast Guard Oceanographic Unit DDP-516 Programs
- Defense Mapping Agency Hydrographic Center * Pilot Chart of the North Atlantic Ocean
- N.A. July December 1973
- * Pilot Chart of the North Pacific Ocean No.55 N.P. July - December 1973

- ".S.ARM", Corps of Engineers (oastal Engineering Research Center
 - An Annotated bibliography of Aerial Remote Sensing in Coastal Engineering
- * Bulletin and Summary of Research Progress Fiscal Year 1970-1971 Vol.4
- * Collected Reprints
- University of California, Scripps Institution
- of Oceanography * data report SIO Reference 73-15 Surface Water Temperatures at Shore Stations United States West Coast 1972
- * data report | SIO Reference 73-25 Physical and Chemical Data Carrowsel Expedi tion, Student Training Cruises
- The Johns Hopkins University Press
- * Northwest Pacific Ocean Waters in Winter The Johns Hopkins Oceanographic Studies No. 5

hailand

Hydrographic Jepartment Royal Thai Navy * Oceanographical Cruise Report Cruise 1/72 Oceanographical Observetion in the Andaman Sea

Venezuela

- Proyecto de Investigación Desarrollo Pesquero
- * Informe Technico No.59, 60
- * Serie Recursos y Explotación Pesqueros Vol.2 No.4-5
- Instituto Oceanografico, Universidad de Oriente
- * boletic billiografico No.9
- * Boletin del Instituto Oceanografico Vol.9 No.1-2, Vol.10 No.1,2

nesco

- * 100 Technical series 10 Strum memorial lectures Presented at the seventh session of the 100
- * International Indian Ocean Expedition Collected reprints 3.4
- * Joint Group of Experts on the Scientific Aspects of Marine Pollution (GESAMP) Rep. of 4 session
- $^{\pm}$ A manual of sea water analysis
- * Determination of photosynthetic pigments in sea-water
- A guide to the measurement of marine primary production under some special condition
- * Exploring the ocean
- * International Oceanographic Tables Vol.1
- * Symposium on Investigations and Resources of the Caribibbean Sea and Adjacent Regions
- * Proceedings of the Symposium on Tidal Instrumentation and Predictions of Tides
- * 198 technical series 3 Radio Communication Requirements for Oceanography
- * IOC technical series 8 160SS General plan and implementation programme for phase 1
- * Morning review lectures of the second international oceanographic congress 1966
- * Proceedings of the Symposium on Tides organized by the International Hydrographic Sureau 1967
- $\ensuremath{^{\pm}}$ Scientific maps and atlas and other related publications catalogue 1971 - 1972

 $^{\pm}$ A la decouverte de 1 ocean $^{\pm}$ ims Newsletter $~{\rm No}_{\,\bullet}~3$

* Marine Science Contents Tables Vol.8 No.6 - No.11

The others

- Institute of Oceanography, College of Science National Taiwan University
- * Science Report of the National Taiwan Univ. ACTA OCEANOGRAPHICA TAIWANICA No.2
- * Oceanographic Data of the South China Sea Special Publication No.2

(6) 既刊刊行物

(1) 逐次刊行物

誌 名 創刊月日 (刊 行 号 数) 昭和48年12月現在)

黑潮共同調査参考資料 昭和40年7月 第1集~第4集(廃刊)

CSK Atlas 昭和42年3月 Vol 1~5

130~146, 148, 150, 154~169, 171~206, 208~250, 254~258,

260~303, 308, 314

JODCニュース 昭和46年3月 161~7、増刊号162

(Non-Japanese Data)

(2) その他の刊行物

海洋観測(各層)の資料コード指針昭和41年2月国際海洋資料交換便覧(改訂版)昭和45年3月

海洋資料センタ**一案内** 昭和 4 5年 3 月

Existing O ceanographic 昭和 4 5年 9 月

Station Data in the South

China Sea

	四台9年	D.	9	7		- ∞	တ	01	=	12	昭和50年	## C	0,	
涆	新藤	海底地形海泉 海中神経一かった 及	城县	· 大	故財徒 火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火火			松 大	惠			-		
洋	名章 元 《 》 《 》 《 》 《 》 《 》 《 》 《 》 》 》 》 》 》	第海 次 を 決 無 決 を か が を か が を か が か か か か か か か か の か の か の か の が の の の の の の の の の の の の の	方 同 ま を ま ま	を変える。		 	名詞 四巻の河 国際 (大利) (大利) (大利) (大利) (大利) (大利)	25 PM	柳 東	海 海 治 治 治 治 治 が が が が が が が が が が が が が	秋堂 松春	を選り 大瀬 東京 日本		為漢龍河
举		海水水	发	来 発表 発表	を変え	治療 維傷 区 変		原		• • • • • • • • • • • • • • • • • • •	海海 大学			6 * *
洪	ऋक	海海·治学都会 北陸·東北沿著	海海海の 日田 田田 東京田 田田 東京 中田 東京 中央 中央 大学 中央 大学	本でである。大利の大利を大利を大利を大利を大力を発力を持ちたか	1	防養調查 第5次海洗觀測 次射能 把伊中· 尊豐中 名 然 声		京母 安 一本 東 大郎 大学 大川 野 大学 東 大学 東 大学 東 大学 東 大学 東 大学 東 大学 東 大学 東				没收	李曹曹帝司奉政帝	<u> </u>
洲	水 原则 東 資量 東	港灣	黄芩	裁法領別		治者	要 果	また 強 all all all all all all all all all a		五路 衛 直回送機器		• •		
	風九波浪	大 松 一 一 一 一	*	個 一次	の事を		大····································	# H	" 一种	: 		X X 基本 X X X X X X X X X X X X X X X X X	ANIEX	
	九 小互聚卷版	GDP K卷版	· 類 · 电	大き	*	:	3号でい為主命を基本を登り	`w1 .	· 张·恭禄由洋東乃西城	· · · · ·	一	更期海洋·污染·点以下更有力量	**.ANTEX	
	風九 光觀者 海風 五 光髓	· 美 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	海上區 光華華麗日 聯·大西·米波	1≪ I -≱J-⊾.	. /表	政治 海 洋 李州東方市 李州東方市	春 年 万中 海 海 海 海 海 ラ ス ス ス ト い い い い が り い が り が り た り た り た り た り た を り た り た を し た り た を り た り た を し を し を り た う た う た う た う た う た う た う た う た う た	海上面, 光觀日本華 依美耳 毒	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		雅 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東		定期為年: 3款 化海道林州東方: 革整湯淡 定期為年	
	4	南日本海区 養沙米·巡院 東京十年	着きな来い大学 	€	明日本卷记 大司 定 朝 海 年· 5条 東 シナ 海	28C)	高が来る。	上往中 動田木 少 米· 每 4 東 十 本	(g)	海水 九 十 第三 馬木 西	\$284 A	高 题目录卷内 文整角十 / 12 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	
£		3.	"人大电话" 卷上 海 共田中東小帝	•	近期海岸沿袭 日 木 油		<u>, ~ ⊞</u>	· 表 冷水場·周鹿 日本春 岩漿像山陰沖	1	※	老光 《 《 《 》 《 》 《 》 《 》 《 》 》 《 》 》 《 》 》 》 》 》 》 》 》 》 》 》 》 。 》 》 。 》 》 。 》 。 》 。 》 。 》 。 》	版 版 四	華華本華	
		定期B工 日本 副 位	! ! :	 	定期 BT 日本周辺	BT.			定類BT 日本題位	<u> </u>		成期 日本期間		<u>г</u> т
ا ب		**	· 秦 朱 第 ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	海 (4)	光 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	をを	の 所 "コキナタか		ないな数のようながら					

(看足,枯杯)

雪

ΨĘ

東

×

品 43 年